インフラ長寿命化計画 個別施設計画

令和3年2月

盛岡地区衛生処理組合

目 次

第1章 計	十画に関する基本的事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第1節	計画の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2節	計画の策定方法及び手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
第2章 旅	国設の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
第1節	施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
第2節	施設の処理状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
第3節	補修·整備履歴······	13
第3章 旅	西設保全計画 ·····	33
第1節	重要度の評価項目・基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
第2節	保全方式の選定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
第3節	機能診断手法の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
第4節	機器別管理基準 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	37
第5節	健全度の評価、劣化の予測・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	54
第6節	整備スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	69
第7節	施設の継続稼働・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	88

第1章 計画に関する基本的事項

第1節 計画の基本方針

盛岡地区衛生処理組合では、計画処理量170kL/日の汚泥再生処理センター「滝沢処理センター」を運営し、管内から収集されるし尿及び浄化槽汚泥の処理を行っている。

当初施設は、昭和58~60年度に計画処理量100kL/日の標準脱窒素処理方式によるし尿処理施設とし建設され、昭和60年11月に供用開始した。

その後、平成15年度~17年度に計画処理量70kL/日の膜分離高負荷脱窒素処理方式に加え、資源化方式は汚泥を脱水後油温減圧乾燥処理とする施設の増設を行うとともに、既設改造工事を行い、計画処理量100kL/日標準脱窒素処理方式の処理施設を第1処理棟、増設した計画処理量70kL/日膜分離高負荷脱窒素処理方式の処理施設を第2処理棟とし計画処理量170kL/日の汚泥再生処理センターとして、平成17年11月に供用開始した。

本施設は、当初施設が稼働開始後35年、増改造施設は15年を経過しており、平成21年度から包括的運転管理業務委託により施設の運転維持管理が行われている。

この間、組合では種々の補修・機器の定期整備等を行い施設の適正管理に努めてきたが、 当初から継続稼働している設備も多く、安定した性能発揮及び処理機能維持のため計画的 に更新または補修を要する状況となっている。

し尿処理施設は、施設を構成する設備装置や部材が高温・多湿でかつ腐食性雰囲気で稼動していることから、腐食や摩耗が早く、他の都市施設と比べると、施設全体としての耐用年数が短い傾向にある。

しかし、建物については50年程度の耐用年数を有しており、腐食性ガスによる損傷を受けやすい水槽コンクリートについても、防食被覆の性能向上及び定期的なメンテナンスや補修整備によりその耐用年数を長く保持する対策が可能となっている。機械電気設備装置においても、適切な更新や補修整備の機会に新技術の導入や高効率機器への更新などにより機能の維持とともに性能の向上が可能である。

ライフサイクルコストを低減しつつ、廃棄物処理施設の設備機能維持を図り長期間の安定した処理機能を発揮させるためには、ストックマネジメントの手法を導入し、施設全体の長寿命化を図ることが必要である。

第2節 計画の策定方法及び手順

個別施設計画は、『廃棄物処理施設長寿命化計画作成の手引き(し尿処理施設・汚泥再生処理センター編)平成22年3月 平成27年3月改訂 環境省大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課』に基づいて策定する。長寿命化計画は、「施設保全計画」と「延命化計画」で構成される。

1 施設保全計画

施設保全計画は、施設の性能を長期に維持していくために、設備・機器に対して適切な保全方式を定め、適切な補修等の整備を行うことで設備・機器の更新周期の延伸を図ることを目的とする。

2 延命化計画

延命化計画は、長期稼動に伴う施設性能の低下や老朽化に対して、基幹的設備や機器 更新等の整備を適切な時期にかつ計画的に行うことで、施設の延命化を図ることを目的 とする。

延命化計画の策定には、施設の将来計画を踏まえた目標年数の設定、延命化に必要となる改良事項を検討し延命化の効果等を確認する必要がある。

し尿処理施設の延命化を計画する場合、下水道整備計画の進捗による処理量の将来的な動向、将来予測処理量や中長期の施設整備計画等関連する条件も考慮し生活排水処理基本計画等の上位計画に基づき延命化目標年を定める場合が多い。

現在はこれらの上位計画含め関連した諸条件から延命化対策は計画されていない。

盛岡地区衛生処理組合 インフラ長寿命化計画(行動計画)より、滝沢処理センターでは現施設を継続稼働する計画としている。

本計画では、施設の性能を長期に維持していくために、設備装置に対し適切な保全方式及び機器別管理基準を定め施設継続稼働実施のための保全計画とする。

3 施設の継続稼働

延命化計画を策定するにあたり、施設の将来計画を踏まえた目標年数の設定、延命化 に必要となる改良事項を検討し延命化の効果等を確認する必要があるが、盛岡地区衛生 処理組合 滝沢処理センターでは今後も現施設を継続稼働する計画としている。

施設運転の継続にあたり施設の検討課題、目標とする性能水準、対応設備機器などについて整理する。

(1) 個別計画の計画期間

インフラ長寿命化計画(行動計画) より当面の計画期間を15年とする。

(2) 選定理由

当初施設は昭和60年11月稼働開始後35年、平成15~17年の増改造工事後15年を経過 し当初設備の老朽化、主要設備装置の経年劣化が進行している。

継続稼働の実現に向けた課題として、現在稼働設備の状態、各設備装置の機能確保、 処理機能の維持等、要求される性能水準の確保が必要となる。

精密機能検査結果および包括運営管理委託開始以降継続的に実施している施設運転 管理に対するモニタリング報告より、施設に求められる機能は良好に発揮されている。 また、設備装置についても令和2年度の精密機能検査結果より、

「本施設は長期包括的運営管理の民間委託を実施しており、実施計画に沿った維持管理によってユーティリティ使用量の削減が図られている。平成30年度からの約30 kL/日の搬入量増加に対しては、余力がある第2処理棟の処理日数を増やすことで対応し、良好な放流水質が保持されている。このような実績を総合的に判断すれば、現在の施設運営は効果的に機能していると評価できる。

なお、第1処理棟は施設竣工後35年が経過し、槽内防食塗装及び槽内配管等に経年 損傷がみられることから、平成27年度から受入貯留工程の防食塗装の補修を行ってい る。また、第2処理棟を含め、一般的な耐用年数に達する機器類も増えてくることか ら、水槽や建物の補修、設備装置の更新等に関し、今後の施設運営管理に残る課題と して計画整備を検討・準備しておく必要がある。」

と報告されており、損傷が指摘されていた水槽防食補修も実施済みであり、今後も搬入条件等に大きな変更がなければ適宜水槽補修や設備装置の整備により大きな改造工事を要することなく継続稼働可能とみられる。

当施設については、平成15~17年の増改造工事時整備後、15年経過しているが、定期的な点検により設備の状態に応じた整備に加え計画的な予防保全により、毎年の点検補修費の大きな増減なく施設の性能が維持され、今後も安定した継続稼働が可能な状態に維持されている。

個別計画の計画期間とした15年程度の稼働期間の間は、大きな工事を伴う延命化工事の必要度は大きくないとみられる。

第2章 施設の現況

第1節 施設の概要

盛岡地区衛生処理組合滝沢処理センターの概要は、表2.1.1及び図2.1.1~図2.1.2に示すとおりである。

表 2.1.1 し尿処理施設の概要

施設名称	盛岡地区衛	生処理組合 滝沢	処理センター									
施設所管	盛岡地区衛 構成市町:	生処理組合 蓝岡市、滝沢市、	雫石町									
所在地	〒020-0621 TEL: 019-68	岩手県滝沢市大 88-5110 FAX:	崎94番地194 019-688-6870									
計画処理能力	第1処理	し尿:120kL/日、 陳:100kL/日(し 陳: 70kL/日(し	尿:70kL/日、浄	化槽汚泥	-							
	工程/施設区分	第1处	L理棟		第2処理棟							
	主処理	標準脱窒素処理ス	方式	膜分離高	高負荷脱窒素処理方式							
	高度処理	凝集分離+オゾ +活性炭吸着	ン酸化+砂ろ過	第1処理	里棟高度処理設備へ移送							
処理方式	汚泥処理	濃縮後、第2処 備へ移送	理棟汚泥処理設	脱水+注(資源化	由温減圧乾燥処理							
	臭気処理	込み→低濃度臭気へ 低濃度臭気:酸洗浄+アルカリ 次亜塩洗浄+活性炭吸着 処理水槽臭気:酸洗浄+活性炭 吸着										
竣工年度		当初設備:昭和6 改造設備:平成1		平成17年	手度							
延床面積		3, 135. 06㎡(管	理棟含む)	3, 032. 6	67 m²							
設計・施工		栗田工業株式会社	±	栗田工美	業株式会社							
希釈水の種類	河川表流水	(沢水) 及び地下	水									
放流先	紫野沢											
し渣処分方法	乾燥 丝 1	尿汚泥肥料として	典批""									
汚泥処分方法	単仏朱後、 し	水行犯品料として	辰地 烟儿									
	Į	頁 目	維持管理基	準	自主規制値							
	рН		5.8~8.6	3	5.8~8.6							
	BOD	(mg/L)	20以下		5以下							
	COD	(mg/L)	_		20以下							
放流水質	SS	(mg/L)	70以下		5以下							
	T-N	(mg/L)	_		10以下							
	T-P	(mg/L)	_		1以下							
	色度	(度)			30以下							
	大腸菌群数	(個/c m³)	3,000以了	₹	100以下							

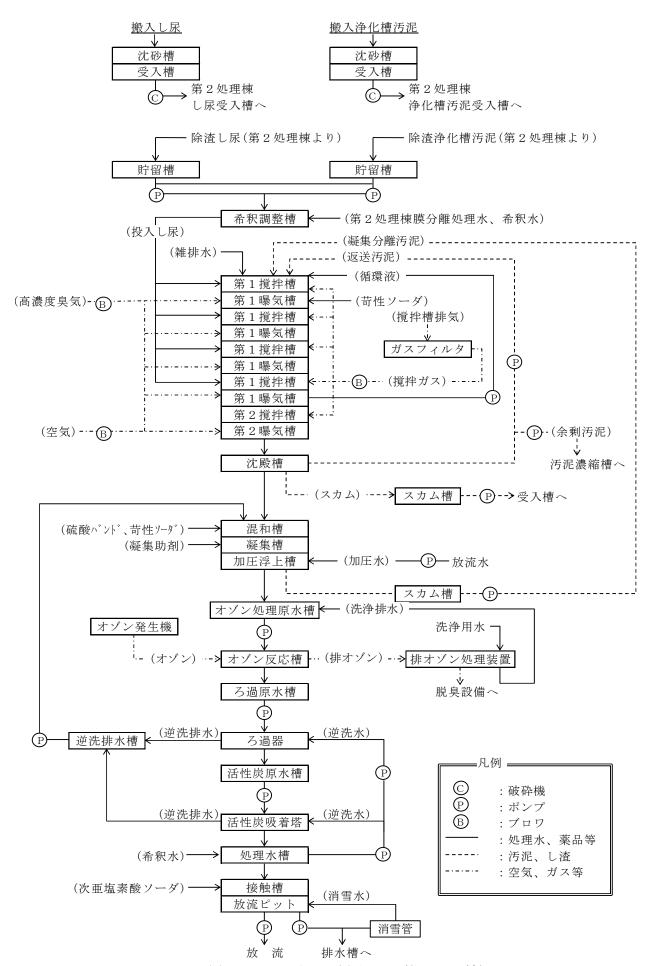


図2.1.1(1) 処理工程図(水処理-第1処理棟)

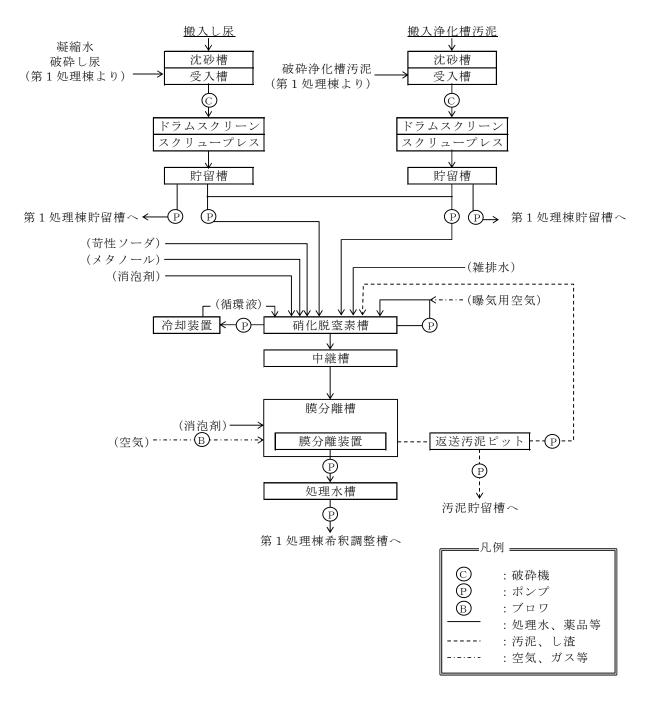


図2.1.1(2) 処理工程図(水処理-第2処理棟)

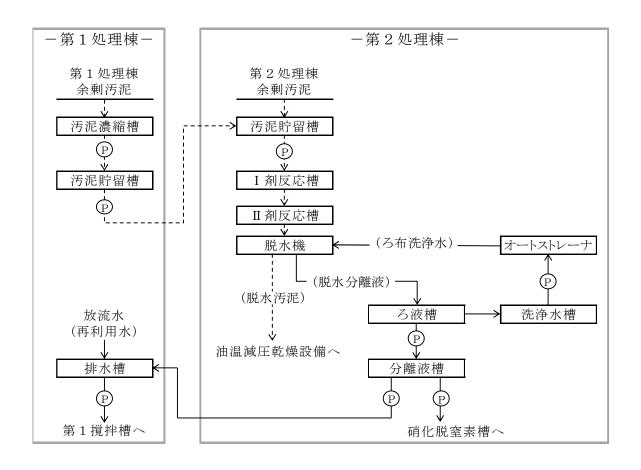


図2.1.1(3) 処理工程図 (汚泥処理)

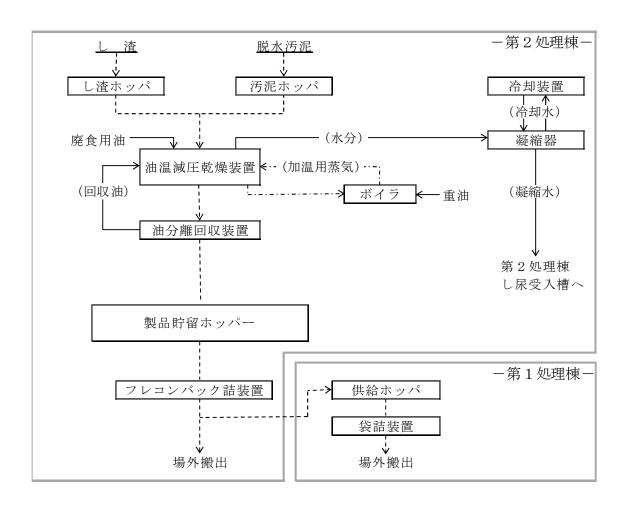
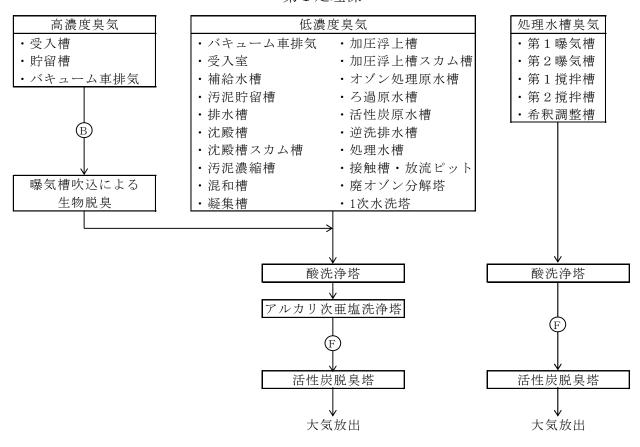
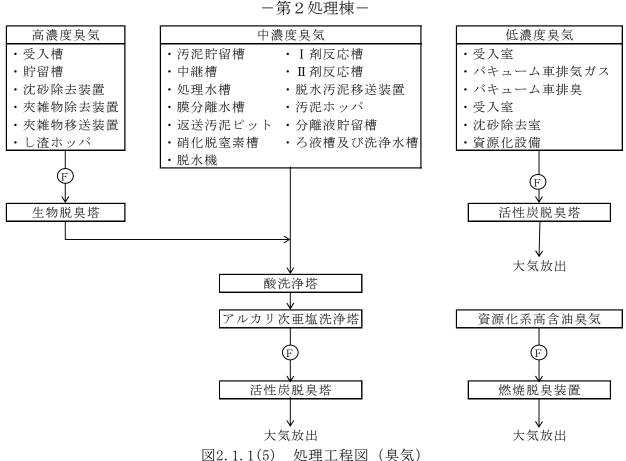


図2.1.1(4) 処理工程図(資源化)

-第1処理棟-





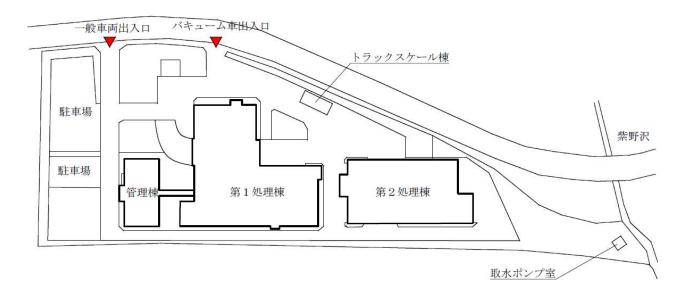


図2.1.2 全体配置図

第2節 施設の処理状況

1 搬入量

平成27年度から令和元年度の年間搬入実績は、表2.2.1及び図2.2.1に示すとおりである。 令和元年度の365日平均搬入量は120kL/日で、計画処理量(170kL/日)に対する搬入率は 71%である。令和元年度の浄化槽汚泥混入率は31%で増加傾向にある。

	搬	ス		量	3 6 5	日平均	搬入	搬入日	数平均
年度	合 計	し尿	浄 化 槽	事汚 泥	搬入量	搬入率	日数	搬入量	搬入率
十 及			搬入量	混入率					
	kL/年	kL/年	kL/年	%	kL/日	%	日	kL/日	%
平成 27年度	38, 688	28, 149	10, 539	27	106	62	244	159	94
平成 28年度	37, 457	27, 161	10, 296	27	103	61	244	154	91
平成 29年度	36, 384	26, 912	9, 472	26	100	59	245	149	88
平成 30年度	45, 254	31, 843	13, 411	30	124	73	245	185	109
会和 元年度	43 758	30 318	13 440	31	120	71	242	181	106

表2.2.1 し尿及び浄化槽汚泥の年間搬入実績

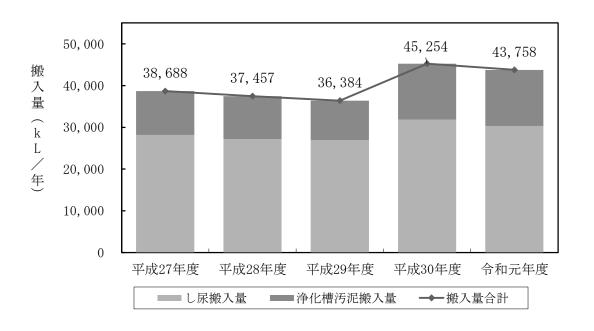


図2.2.1 し尿及び浄化槽汚泥搬入量の推移

2 電力・燃料・薬品使用量

平成27年度から令和元年度の電力・燃料・薬品の年間使用量は、表2.2.2及び図2.2.3に示すとおりである。

			20.0	•	2 //////	×1.4	~/13 == ->				
						身	 医品等使用量	ţ			
年度	電力使用量	重油使用量	脱水用 無機凝集剤	水処理用 無機凝集剤	無機凝集剤	苛性ソーダ	メタノール	次亜塩素酸 ソーダ	凝集助剤	脱水助剤	廃食用油
	(kWh)	(L)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)
平成27年度	2, 631, 289	185,870	51, 374	167,600	218, 975	89, 225	4, 566	25, 829	255	3,676	120,069
平成28年度	2, 616, 261	171, 460	46, 807	145, 266	192, 073	73, 500	4, 854	28, 152	247	2,850	110, 494
平成29年度	2, 534, 797	156, 850	48, 167	136, 501	184, 668	66, 675	2, 974	26, 220	254	2,967	101, 288
平成30年度	2, 953, 642	186, 510	66, 700	168, 142	234, 841	96, 675	10, 526	25, 875	277	3, 126	127, 145
令和元年度	2, 932, 818	182, 140	63, 083	153, 450	216, 533	83, 675	10, 316	26, 692	267	2, 251	129, 108

表2.2.2 電力・燃料・薬品使用量の実績

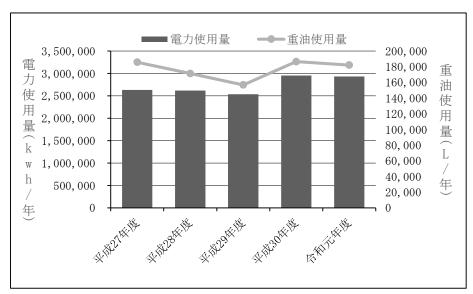


図2.2.2 電力及び燃料使用量の推移

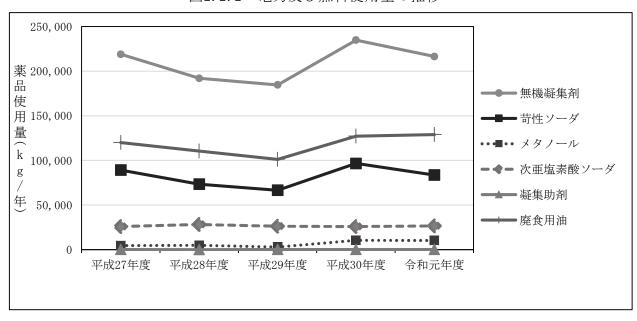


図2.2.3 薬品使用量の推移

第3節 補修・整備履歴

1 修繕費

平成20年度から令和元年度までの修繕費は、表2.3.1及び図2.3.1に示すとおりである。

表2.3.1 修繕費の実績

年度	修繕費
平成20年度	18, 997
平成21年度	57, 560
平成22年度	78, 567
平成23年度	49, 988
平成24年度	78, 355
平成25年度	76, 714
平成26年度	95, 528
平成27年度	123, 504
平成28年度	114, 651
平成29年度	125, 941
平成30年度	120, 238
令和元年度	136, 767

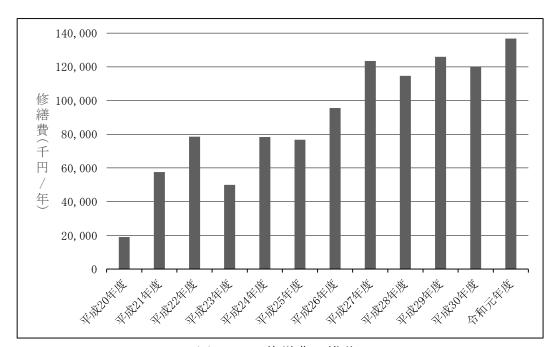


図2.3.1 修繕費の推移

2 維持補修実績

平成20年度から令和元年度までの維持補修実績は、表2.3.2~表2.3.3に示すとおりである。

表2.3.2(1) 維持補修実績(第1処理棟:RC設備)

【第	1処理棟】設備		設置				H20	~R元年度	の整備内	容		●:更新	i ■:	整備		
	RC設備	形式	年度	整備内容	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	沈砂ピット(し尿)	RC	S59	槽内防食												
1	沈砂ピット(浄化槽汚泥)	RC	S59	槽内防食												
受入	し尿受入槽	RC	S59	槽内防食						-					重全面	■ ※マンホール
貯留	净化槽汚泥受入槽	RC	S59	槽内防食						-						■全面 ※配管
	し尿貯留槽	RC	S59	槽内防食						上部			下部			
	净化槽汚泥貯留槽	RC	S59	槽内防食								重全面				
	第一攪拌槽	RC	S59	槽内防食												
二	第一曝気槽	RC	S59	槽内防食												
段活	第二撹拌槽	RC	S59	槽内防食												
性汚	第二曝気槽	RC	S59	槽内防食												
泥	沈殿槽	RC	S59	槽内防食												
	沈殿槽スカム槽	RC	S59	槽内防食												
	混和槽	RC	S59	槽内防食												
凝	凝集槽	RC	S59	槽内防食												
集十	加圧浮上槽	RC	S59	槽内防食												
オゾ	加圧浮上槽スカム槽	RC	S59	槽内防食												
ン	オゾン処理原水槽	RC	S59	槽内防食												
	オゾン反応槽	RC	S59	槽内防食												
	ろ過原水槽	RC	S59	槽内防食												
	活性炭原水槽	RC	S59	槽内防食												
3	処理水槽	RC	S59	槽内防食												
過 + 放	活性炭受槽	RC	S59	槽内防食												
流	逆洗排水槽	RC	S59	槽内防食												
	接触槽	RC	S59	槽内防食												
	放流ピット	RC	S59	槽内防食												
汚	汚泥濃縮槽	RC	S59	槽内防食												
泥処	汚泥貯留槽	RC	S59	槽内防食												
理	排水槽	RC	S59	槽内防食												
	管理棟排水槽	RC	S59	槽内防食												
	沢水取水用沈砂槽A	_	S59	槽内防食									スクリーン			
排水	沢水取水用沈砂槽B	_	S59	槽内防食									スクリーン			
	受水槽	_	S59	槽内防食												
	処理棟建屋外壁	RC	S59	塗装												
	処理棟吹付アスベスト	_	S59	吹付除去												■ 脱臭塔室
そ の 他	処理棟屋根	_	S59	屋根防水			重全面									
"	管理棟屋根	_	S59	屋根防水			重全面									
	薬品ヤード	-	S59	堤内塗装												全面

表2.3.2(1) 維持補修実績(第1処理棟:機械設備)

(その1)

【第	第1処理棟】設備	設置	経過	H20 R元4)~ 年度			H2	0~R元年度	の整備内	容		●:更新	■: 彗	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	搬入車室自動ドア	S59	35	0	11		•		•	-	•	•		•	-	•	•
	コンプレッサー (自動扉用)	R元	-	2	0		•										•
	エアドライヤー (自動扉用)	H27	4	1	0								•				
	受入口	S59	35	0	0												
	真空タンク	S59	35	0	0												
	真空ポンプ	H17	14	0	2												•
	し尿破砕装置 (し尿浄化共用)	H18	13	0	5		■切り刃		•			切り刃		-			•
受	し尿破砕装置	H18	13	0	5		■切り刃					切り刃		•			
入・貯	浄化槽汚泥破砕装置	H18	13	0	5		■切り刃					■切り刃		•			•
留	し尿投入ポンプA	H17	14	0	3			•					•				•
	し尿投入ポンプS	H17	14	0	3			•					-				•
	浄化槽汚泥投入ポンプ	H17	14	0	5		-		•		-		-				-
	し尿スカム破砕ポンプ	H29	2	1	2		•				•				•		
	浄化槽汚泥スカム破砕ポンプ	H30	1	1	2		-					-				•	
	補給水槽	S59	35	0	0												
	管理棟排水移送ポンプA	H29	2	2	0					•					•		
	管理棟排水移送ポンプB	Н5	26	0	0												
	希釈調整槽	H29	2	2	0	•									•		
	希釈調整槽減速機	H25	6	1	0						•						
	ガス撹拌ブロワA	H22	9	1	6	-		•	■ 吸込配管		•		•		•		•
	ガス撹拌ブロワB	H22	9	1	6			•	■ 吸込配管			•		•			
	ガスフィルター (撹拌用)	H17	14	0	0												
	ガスフィルター (撹拌用)充填材	H17	14	0	0												
	ガスシールタンク	S59	35	0	0												
	撹拌槽散気管	H16	15	0	0												
二段	曝気ブロワ A	H17	14	0	6		•		•		-		-		-		•
活性	曝気ブロワB	H17	14	0	6		-				•				-		
汚泥	曝気ブロワ C	H17	14	0	5							•		-			
	曝気ブロワAインバータ	H16	15	0	0												
	曝気ブロワBインバータ	H16	15	0	0												
	曝気ブロワ C インバータ	H16	15	0	0												
	曝気槽散気管	H16	15	0	0												
	苛性ソーダ注入ポンプ (曝気槽用)	H16	15	1	0							•					
	循環ポンプA	H24	7	1	1					•				-			
	循環ポンプB	H24	7	1	1					•				-			
	沈殿槽減速機	H25	6	1	0						•						

表2.3.2(1) 維持補修実績(第1処理棟:機械設備)

(その2)

【 第	第1処理棟】設備	設置	経過	H20 R元:	0~ 年度			H20)~R元年度	度の整備内	容		●: 更新	■:生	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	沈殿槽スカム移送ポンプ	H22	9	1	1			•					■羽根, 切り刃				
	沈殿槽内部機械装置	H26	5	0	0												
	返送汚泥ポンプA	H29	2	2	1	基礎				-					•		
	返送汚泥ポンプB	H29	2	2	1	基礎				-					•		
	余剰汚泥引抜ポンプ	H17	14	0	6		-		-		•		•		-		-
	メタノール貯槽	S59	35	0	1												•
	メタノール注入ポンプA	H15	16	0	0												
二段	メタノール注入ポンプB	H15	16	0	0												
活性	メタノール移送ポンプA	H17	14	0	1								•				
汚泥	メタノール移送ポンプB	H15	16	0	1												
	消泡剤貯槽	H17	14	0	0												
	消泡剤注入ポンプA	Н8	23	0	0												
	消泡剤注入ポンプB	Н8	23	0	0												
	消泡剤注入ポンプC	Н8	23	0	0												
	消泡剤注入ポンプD	Н8	23	0	0												
	消泡剤注入ポンプE	Н8	23	0	0												
	消泡剤注入ポンプF	Н8	23	0	0												
	気液分離槽	R元	_	2	1		•			基礎配管							•
	加圧水ポンプA	H29	2	2	2	基礎	•			● 交換					•		
	加圧水ポンプB	H30	1	3	1	基礎	● 予備			•						•	
	加圧用コンプレッサーA	R元	1	2	0		•										•
	加圧用コンプレッサーB	R元	_	2	0		•										•
	加圧浮上槽減速機	H25	6	1	0						•						
	加圧浮上槽内機械装置	S59	35	0	1					■ 塗装							
	加圧浮上スカム移送ポンプA	R元	1	2	1		•					■羽根					•
凝集	加圧浮上スカム移送ポンプB	H29	2	1	1					羽根					•		
+ オ	硫酸バンド貯槽	H21	10	1	0		•										
ゾン	硫酸バンド 注入ポンプ(凝集用)A	H27	4	1	0								•				
	硫酸バンド 注入ポンプ(凝集用)B	H27	4	1	0								•				
	高分子凝集剤溶解槽A	S59	35	0	0												
	高分子凝集剤溶解槽B	S59	35	0	0												
	高分子凝集剤 溶解槽撹拌機 A	H24	7	1	0					•							
	高分子凝集剤 溶解槽撹拌機B	H24	7	1	0					•							
	高分子凝集剤注入ポンプA	H27	4	1	0								•				
	高分子凝集剤注入ポンプB	H27	4	1	0								•				
	凝集槽撹拌機	H24	7	1	0					•							

表2.3.2(1) 維持補修実績(第1処理棟:機械設備)

(その3)

Ţ	第1処理棟】設備	設置	経過	H20 R元4				H20	0~R元年度	ぎの整備内	容		●: 更新	■: 3	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	苛性ソーダ貯槽	H21	10	1	0		•										
	苛性ソーダ 注入ポンプ(凝集用)A	H26	5	1	0							•					
	苛性ソーダ 注入ポンプ(凝集用)B	H26	5	1	0							•					
	混和槽撹拌機	H24	7	1	0					•							
	オゾナイザー	H15	16	0	12	•		•	■ 77ン含		•	■ 77)含	-	-	■ 7ァン含	•	•
	コンプレッサA	H15	16	0	12	•		•	•		•	•	•	•	-	•	•
	コンプレッサB	H15	16	0	12	•	-	-	•	-	•	-	-	-	-	-	-
	オゾン反応槽散気装置	S59	35	5	0			● 交換		● 交換		● 交換		● 交換		● 交換	購入
凝	オゾン反応槽犠牲電極	H29	2	2	0					•					•		
集 +	オゾン処理原水ポンプA	H17	14	0	3	基礎								•			
オゾ	オゾン処理原水ポンプB	H27	4	1	1	基礎							•				
ン	消泡槽	S59	35	0	0												
	泡沫水ポンプ A	R元	-	2	1	基礎	•										•
	泡沫水ポンプB	R元	_	2	1	基礎	•										•
	一次水洗塔	H28	3	1	0									•			
	一次水洗塔充填材	S59	35	0	0												
	二次水洗塔	H15	16	0	0												
	排オゾン分解塔	H15	16	0	12	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
	排オゾン分解塔活性炭	H15	16	0	0												
	排オゾンモニタ	H15	16	0	12	•		•	•		•	•	•	•	-	•	•
	ろ過器A	S59	35	0	1				■基礎								
	ろ過器B	S59	35	0	1				■基礎								
	ろ過器Aろ材	H17	14	0	0												
	ろ過器Bろ材	H17	14	0	0												
	ろ過原水ポンプA	H30	1	2	1	基礎+ ●予備						•				•	
	ろ過原水ポンプB	H30	1	2	1	基礎+ ●予備						•				•	
ろ	ろ過原水ポンプC	H30	1	2	1	基礎+ ●予備						•				•	
過 + 放	活性炭原水ポンプA	R元	_	2	3	基礎	●■配管					•					•
流		H24	7	1	2	基礎				•					-		
	活性炭移送ポンプ	S59	35	0	0												
	活性炭吸着塔A活性炭	S59	35	0	0												
	活性炭吸着塔B活性炭	S59	35	0	0												
	活性炭吸着塔A	S59	35	0	1				■面前配管								
	活性炭吸着塔B	S59	35	0	1				■ 面前配管								
	活性炭原水槽散気装置	S59	35	0	0												

表2.3.2(1) 維持補修実績(第1処理棟:機械設備)

(その4)

【第	第1処理棟】設備	設置	経過	H20 R元:	0~ 年度			H20)~R元年度	変の整備内	容		●:更新	■:生	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	逆洗ポンプ	H26	5	1	2	■基礎	■配管					•					
	逆洗排水移送ポンプA	H17	14	0	4		•			•			•			•	
	逆洗排水移送ポンプB	H17	14	0	4		•			•			•				
	逆洗排水槽散気装置	S59	35	0	1								•				
	次亜塩素酸 ナトリウム貯槽	H21	10	1	0		•										
	次亜塩素酸ナトリウム 注入ポンプ(消毒用) A	R元	-	1	0												•
ろ過-	次亜塩素酸ナトリウム 注入ポンプ (消毒用) B	R元	_	1	0												•
+ 放流	サンプリングポンプ	H29	2	4	0	基礎+ ●予備			•				•		•		
Diu	放流ポンプ A	H27	4	1	3		基礎			•			•				•
	放流ポンプB	H28	3	1	2		基礎			•				•			
	計装用コンプレッサーA	H21	10	1	0		● 予備										
	計装用コンプレッサーB	H21	10	1	0		•										
	エアードライヤー (計装用)	R元	-	2	0					•							•
	ろ過器操作盤 (ろ過器+活性炭)	S59	35	0	1												•
	汚泥濃縮槽減速機	H16	15	0	0												
		H17	14	0	0												
	汚泥貯留槽散気装置	S59	35	0	0												
	濃縮汚泥引抜ポンプA	H17	14	0	3			•					•				•
汚泥	濃縮汚泥引抜ポンプB	H17	14	0	3			•					•				•
処理	汚泥移送ポンプA	H17	14	0	2			•						•			
	汚泥移送ポンプB	H15	16	0	2			•						•			
	排水移送ポンプA	H17	14	1	3			•			● 配管含		•				-
	排水移送ポンプB	H17	14	1	3			•			● 配管含		•				•
	排水槽散気装置	S59	35	0	0						невц						
	供給ホッパ	H16	15	0	1											•	
	供給用バケット エレベーター	H16	15	0	1											•	
	供給用 スクリューコンベア	H16	15	0	1										•		
	1kg用シール機	H16	15	0	0												
	1kg用半自動計量 包装装置	H16	15	0	0												
資源	1kg用, 20kg用 自動計量装置	H16	15	0	8	-			•			•	•	•		•	•
化袋		H16	15	0	2								•				•
詰	整形コンベア	H16	15	0	2								•				•
	フィードコンベア	H16	15	0	1												
	ロボットバレタイザー	H16	15	0	4	•						•			•		
	集塵機	H16	15	0	3							•		-			
	コンプレッサA	H15	16	0	2							•			•		

表2.3.2(1) 維持補修実績(第1処理棟:機械設備)

(その5)

【角	第1処理棟】設備	設置	経過	H20 R元4)~ 年度			H20)~R元年度	での整備内	容		●:更新	■:生	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	コンプレッサB	H15	16	0	2										-		
	バキューム車排臭補集装置	H17	14	1	0								●ホース ノス゛ル				
	高濃度臭気吹込ブロワA	H17	14	0	6	•				•		•		-		-	
	高濃度臭気吹込ブロワB	H17	14	0	6	-					•		-		-		-
	高濃度臭気吹込 ブロワAインバータ	H17	14	0	0												
	高濃度臭気吹込 ブロワBインバータ	H17	14	0	0												
y/ke-	ガスフィルター (高濃度臭気用)	H17	14	0	0												
資源化	高濃度臭気用 ガスフィルター充填材	H17	14	0	0												
袋詰	低濃度臭気排気ファン	H27	4	1	1					•			•				
	No. 1酸洗脱臭塔	S59	35	0	0												
	NO. 1酸洗脱臭塔充填材	S59	35	0	0												
	No. 1 酸循環ポンプ	H23	8	1	0				•								
	アルカリ脱臭塔	S59	35	0	0												
	アルカリ脱臭塔充填材	S59	35	0	0												
	アルカリ循環ポンプ	H23	8	1	0				•								
	次亜塩素酸ナトリウム 注入ポンプ (脱臭用) A	H28	3	1	0									•			
	次亜塩素酸ナトリウム 注入ポンプ (脱臭用) B	H28	3	1	0									•			
	硫酸貯槽	H15	14	0	1											-	
	硫酸注入ポンプ (低濃度臭気用)	H15	16	0	0												
	苛性ソーダ注入ポンプ (脱臭用)	H26	5	1	0							•					
	No. 1活性炭脱臭塔	S59	35	0	0												
	NO. 1活性炭脱臭塔活性炭	S59	35	0	0												
	No. 1ミストセパレーター	H21	10	1	0		•										
	処理水臭気排気ファン	H28	3	1	2					•				•			
脱	No. 2酸洗脱臭塔	S59	35	0	0												
臭	NO. 2酸洗脱臭塔充填材	S59	35	0	0												
	No. 2 酸循環ポンプ	H15	8	1	0				•								
	硫酸注入ポンプ (処理水槽臭気用)	H15	16	0	0												
	No. 2活性炭脱臭塔	S59	35	0	0												
	NO. 2活性炭脱臭塔活性炭	S59	35	0	0												
	No. 2ミストセパレーター	H21	10	1	0		•										
	排ガス吸引ファン	H17	14	0	0												
	煙突	S59	35	0	0												
	臭突	S59	35	0	0												
給	沢水用取水ポンプA	H30	1	1	0											•	
水	沢水用取水ポンプB	H30	1	1	0											•	

表2.3.2(1) 維持補修実績(第1処理棟:機械設備)

(その6)

[]	第1処理棟】設備	設置	経過	H20 R元 ⁴				H20)~R元年度	の整備内	容		●: 更新	■: 生			
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	水中深井戸ポンプ	H24	7	1	0					•							
	シール水ポンプ ジュニアウォーターエース	H24	7	1	0					•							
水	希釈水ポンプA	R元	_	2	2	基礎	•					•					•
	希釈水ポンプB	R元	-	2	2	基礎	•					•					•
そ	クリタックシステム	H28	3	1	1									•			■ ろ過盤
_	電気設備その1	-	-	1	0									•			
	電気設備その2	-	-	1	0									•			

表2.3.2(2) 維持補修実績(第2処理棟:RC設備)

【第	2処理棟】設備		設置	整備内容			H20)~R元年度	で整備内	容		●: 更新	■: 彗			
	RC設備	形式	年度	登順的谷	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	し尿沈砂槽	RC	H17	槽内防食												
	浄化槽汚泥沈砂槽	SUS- 304	H17	槽内防食												
受入・	し尿受入槽	RC	H17	槽内防食												
貯留	浄化槽汚泥受入槽	SUS- 304	H17	槽内防食												
	し尿貯留槽(2)	RC	H17	槽内防食												
	浄化槽汚泥貯留槽	RC	H17	槽内防食												
一次	硝化脱窒素槽	RC	H17	槽内防食												
処理	中継槽	RC	H17	槽内防食												
生物	膜分離水槽	RC	H17	槽内防食												
膜分離	返送汚泥ピット	RC	H17	槽内防食												
処理	処理水槽	RC	H17	槽内防食												
	汚泥貯留槽(2)	RC	H17	槽内防食												
汚泥	ろ液槽	RC	H17	槽内防食												
処理	洗浄水槽	RC	H17	槽内防食												
	分離液貯留槽	RC	H17	槽内防食												
取排	受水槽	RC	H17	槽内防食												
	排水槽	RC	H17	槽内防食												
その	処理棟建屋外壁	RC	H17	塗装												
	処理棟屋根	RC	H17	屋根防水												

表2.3.2(2) 維持補修実績(第2処理棟:機械設備)

(その1)

【多	第2処理棟】設備	設置	経過	H20 R元:)~ 年度			H20	~R元年度	で 整備内	容		●: 更新	■:碧	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	トラックスケール	R元	0	1	0												•
	搬入車室自動ドア	H16	15	0	2											•	
	し尿受入口A	H16	15	0	0												
	し尿受入口B	H16	15	0	0												
	し尿受入口C	H16	15	0	0												
	し尿受入口D	H16	15	0	0												
	浄化槽汚泥受入口	H16	15	0	1											•	
	浄化槽汚泥受入口	H16	15	0	2									•		•	
	真空ポンプ	H16	15	0	2				-							•	
	真空タンク	H16	15	0	0												
	補給水槽	H16	15	0	0												
	し尿破砕装置A	H28	3	1	11		•	•	-	•	-	•		•=			
	し尿破砕装置B	H29	2	1	11		•	•	•	•	•	•	•		•=	•	
	し尿破砕装置C	H30	1	1	11		•	•	•	•	•	•	•	•		•=	
	浄化槽汚泥破砕装置A	R元	0	1	11		•	•	•	•	•	•	•	•			•=
	浄化槽汚泥破砕装置B	H27	4	1	12		•	•	•	•	•	•	•=	•		•	
受	し尿ドラムスクリーンA	H15	16	0	5		•		•			•		•			
受入・	し尿ドラムスクリーンB	H15	16	0	4		•		•			•					
貯留設	し尿スクリュープレスA	H15	16	0	5		•		•			•		•			
備	し尿スクリュープレスB	H15	16	0	4		•		•			-			•		
	し尿スクリュープレス 油圧ユニットA	H15	16	0	5				•			•		•			
	し尿スクリュープレス 油圧ユニットB	H15	16	0	4				•			•					
	し尿計量タンク A	H15	16	0	5				•			•		•			
	し尿計量タンク B	H15	16	0	4		•		-			-			•		
	し尿洗浄空気ファンA	H15	16	0	5		•					•		•			•
	し尿洗浄空気ファンB	H15	16	0	4		•		•			•			•		
	 浄化槽汚泥 ドラムスクリーン	H15	16	0	4		•		•			•				-	
	浄化槽汚泥スクリュープレス	H15	16	0	4		•		•			•				•	
	浄化槽汚泥スクリュー プレス油圧ユニット	H15	16	0	4		•		•			•				-	
	浄化槽汚泥計量タンク	H15	16	0	4		•		•			•				-	
	浄化槽汚泥洗浄空気ファン	H15	16	0	4		•		•			•				•	
	夾雑物移送装置	H16	15	0	1					•							
	高圧洗浄ポンプA	H30	1	1	0											•	
	高圧洗浄ポンプB	H30	1	1	0											•	
	高圧洗浄ポンプC	H30	1	1	0											•	
	温水洗浄装置温水洗浄タンク	H15	16	0	5								•	•			

【第	第2処理棟】設備	設置	経過)~ 年度			H20)~R元年度	度の整備内	容		●: 更新	■:3	整備		
	機器名称	年度	年数	更新		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	温水洗浄装置ヒーター	H15	16	0	0												
	アルカリ洗浄ポンプ	H15	16	0	0												
	アルカリ洗浄タンク	H15	16	0	0												
	アルカリ撹拌機	H15	16	0	0												
	苛性ソーダ注入ポンプ (アルカリ洗浄用) A	H15	16	1	0							•					
	苛性ソーダ注入ポンプ (アルカリ洗浄用) B	H15	16	1	0							•					
	し尿貯留槽(2) 撹拌ポンプA	H17	14	0	6		-		•		-		•		-		-
受入	し尿貯留槽(2) 撹拌ポンプB	H17	14	0	6		-		•		-		-		-		-
貯留	浄化槽汚泥貯留槽(2) 撹拌ポンプA	H17	14	0	3		-				-				-		
設	浄化槽汚泥貯留槽(2) 撹拌ポンプB	H17	14	0	3		-				-				-		
	し尿移送ポンプ	H17	14	0	4		-			-			•			-	
	浄化槽汚泥移送ポンプ	H17	14	0	4		-			-			-				
	し尿投入ポンプ(2) A	H17	14	0	3		-				-				-		
	し尿投入ポンプ(2) B	H17	14	0	3		-				-				-		
	浄化槽汚泥投入ポンプ(2)A	H17	14	0	2			-						-			
	浄化槽汚泥投入ポンプ(2)B	H17	14	0	2			-						-			
	排水移送ポンプ	R元	0	1	0												•
	サンプリングポンプ	H17	14	0	6		-	•		-		•		-		-	
	サンプリング槽	H16	15	0	0												
	消泡スプレーポンプA	H17	14	0	5			-		-		•		-		-	
	消泡スプレーポンプB	H17	14	0	5			-		-		•		-		-	
	酸素溶解循環ポンプA	H17	14	0	3		-					•					-
	酸素溶解循環ポンプB	H17	14	0	3		•					•					•
	酸素溶解循環ポンプC	H17	14	0	2			-					•				
	酸素溶解循環ポンプD	H17	14	0	2			-					•				
_	酸素溶解循環ポンプA インバータ	H17	14	0	0												
次処	酸素溶解循環ポンプB インバータ	H17	14	0	0												
理設	インバータ	H17	14	0	0												
備	酸素溶解循環ポンプD インバータ	H17	14	0	0												
	消泡剤注入ポンプA	H15	16	0	0												
	消泡剤注入ポンプB	H15	16	0	0												
	消泡剤注入ポンプS	H15	16	0	0												
	消泡剤貯槽	H16	15	0	0												
	メタノールサービスタンク	H16	15	0	0												
	メタノール注入ポンプA	H17	14	0	0												
	メタノール注入ポンプB	H17	14	0	0												
	苛性ソーダ貯槽	H16	15	0	0												

(その3)

【 第	第2処理棟】設備	設置	経過)~ 年度			H20)~R元年度	まの整備内	容		●:更新	r ■:4	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	苛性ソーダ注入ポンプ (硝化用) A	H15	16	1	0							•					
	苛性ソーダ注入ポンプ (硝化用) B	H15	16	1	0							•					
	熱交換器	H17	14	0	1									•			
_	冷却塔	H16	15	0	0												
次処	冷却水自動管理装置	H15	16	0	0												
理設	冷却水自動管理装置 注入ポンプA・B	H15	16	0	0												
備	冷却水ポンプA	H30	1	1	2			•				•				•	
	冷却水ポンプB	H30	1	1	2			•				•				•	
	中継ポンプA	H17	14	0	3			•				•				•	
	中継ポンプB	H17	14	0	3			•				•				•	
	生物膜分離装置A	H17	14	1	11		•	•	•	•	•	•	•	•	●膜※10 枚購入	•	
	生物膜分離装置B	H17	14	1	11		•	•	•	•	•	•	•		•	●膜※20 枚購入	
	生物膜分離装置C	H17	14	2	10		•	•	•	•	•	●膜	•		•	•	●膜 ※ 12 枚購入
	生物膜分離装置D	H17	14	1	11		•	•	•	•	•	•	●膜		•	•	•
	生物膜分離装置E	H17	14	1	11	•	-	-	•	-	-	•	•	●膜※70 枚購入	•	-	-
	透過液吸引ポンプA	H15	16	0	3		-				-			•			
	透過液吸引ポンプB	H15	16	0	3		-				-			•			
	透過液吸引ポンプC	H15	16	0	3		-				-			•			
	透過液吸引ポンプD	H15	16	0	3		-				-			•			
	透過液吸引ポンプE	H15	16	0	3		-				•			•			
	透過液吸引ポンプA インバーター	H15	16	0	0												
生	透過液吸引ポンプB インバーター	H15	16	0	0												
物膜	透過液吸引ポンプC インバーター	H15	16	0	0												
分離処	透過液吸引ポンプD	H15	16	0	0												
理	透過液吸引ポンプE インバーター	H15	16	0	0												
備		H17	14	0	5			•			•			•			•
	膜分離槽撹拌ブロワB	H16	15	0	5			•			•			•			•
	返送汚泥ポンプA	H17	14	0	2			•					•				
	返送汚泥ポンプB	H17	14	0	2			-					•				
	汚泥返送ポンプ A インバータ	H17	14	0	0												
	汚泥返送ポンプB インバータ	H17	14	0	0												
	余剰汚泥引抜ポンプA	H17	14	0	3		•				•						
	余剰汚泥引抜ポンプB	H17	14	0	3		•				•						
	余剰汚泥引抜ポンプA インバータ	H17	14	0	0												
	余剰汚泥引抜ポンプB インバータ	H17	14	0	0												
	処理水移送ポンプA	H17	14	0	3		-				-				•		
	処理水移送ポンプB	H17	14	0	3		•				•				•		

(その4)

【第	第2処理棟】設備	設置	経過	H20 R元4				H20)~R元年度	の整備内	容		●: 更新	■:3	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	処理水移送ポンプA インバータ	H17	14	0	0												
	処理水移送ポンプB インバータ	H17	14	0	0												
生物	返送汚泥ピット散気装置	H17	14	0	0												
膜分盤	次亜塩素酸Na注入ポンプ (膜洗浄用) A	H15	16	0	0												
離処理	次亜塩素酸Na注入ポンプ (膜洗浄用) B	H15	16	0	0												
設備	次亜塩用薬洗タンク	H16	15	0	0												
	シュウ酸用薬洗タンク	H16	15	0	0												
	次亜塩素酸ナトリウム貯槽	H23	8	1	1			•	•								
	汚泥貯留槽撹拌ブロワ	H17	14	0	6		•				•		•		•		•
	分離液貯留槽撹拌ブロワA	H17	14	0	5						•			-		-	
	分離液貯留槽撹拌ブロワB	H17	14	0	5		•				•			•		•	
	汚泥貯留槽(2)散気装置	H17	14	0	0												
	汚泥供給ポンプA	H17	14	0	3								•				
	汚泥供給ポンプB	H17	14	0	3			•					•				•
	汚泥供給ポンプC	H17	14	0	3			•					•				•
	汚泥供給ポンプS	H17	14	0	3			•					•				•
	汚泥供給ポンプA インバータ	H17	14	0	0												
	汚泥供給ポンプB インバータ	H17	14	0	0												
	汚泥供給ポンプC インバータ	H17	14	0	0												
	汚泥供給ポンプS インバータ	H17	14	0	0												
	硫酸バンド貯槽	H16	15	0	0												
汚泥	硫酸バンド注入ポンプA	H27	4	1	0								•				
処理	硫酸バンド注入ポンプB	H27	4	1	0								•				
設備	硫酸バンド注入ポンプC	H27	4	1	0								•				
	硫酸バンド注入ポンプS	H27	4	1	0								•				
	硫酸バンド注入ポンプ A インバータ	H16	15	0	0												
	硫酸バンド注入ポンプB インバータ	H16	15	0	0												
	硫酸バンド注入ポンプC インバータ	H16	15	0	0												
	硫酸バンド注入ポンプ S インバータ	H16	15	0	0												
	Ⅱ剤定量供給機	H15	16	0	2			-						•			
	Ⅱ剤溶解槽	H16	15	0	0												
	Ⅱ剤溶解槽撹拌機A	H15	16	0	1							•					
	Ⅱ剤溶解槽撹拌機B	H16	15	0	1							•					
	Ⅱ剤注入ポンプA	H17	14	0	2			•					-				
	Ⅱ剤注入ポンプB	H17	14	0	2			-					-				
	Ⅱ剤注入ポンプC	H17	14	0	2			•					-				
	Ⅱ剤注入ポンプS	H17	14	0	2			-					-				

(その5)

【笋	第2処理棟】設備	設置	経過	H20 R元4				H20	~R元年度	の整備内	容		●: 更新	■:3	整備		
	機器名称	年度	年数	更新		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	Ⅱ 剤注入ポンプA インバータ	H17	14	0	0												
	Ⅱ 剤注入ポンプB インバータ	H17	14	0	0												
	Ⅱ 剤注入ポンプC インバータ	H17	14	0	0												
	Ⅱ剤注入ポンプS インバータ	H17	14	0	0												
	I 剤反応槽 A	H16	15	0	0												
	I 剤反応槽 B	H16	15	0	0												
	I 剤反応槽 C	H16	15	0	0												
	I 剤反応槽攪拌機A	H15	16	0	1												
	I 剤反応槽攪拌機B	H15	16	0	1							•					
	I 剤反応槽攪拌機C	H15	16	0	1							•					
	Ⅱ剤反応槽A	H16	15	0	0												
	Ⅱ剤反応槽B	H16	15	0	0												
	Ⅱ剤反応槽C	H16	15	0	0												
	Ⅱ剤反応槽攪拌機A	H16	15	0	0												
	Ⅱ剤反応槽攪拌機B	H16	15	0	0												
	Ⅱ剤反応槽攪拌機C	H16	15	0	0												
	脱水機A	H16	15	0	4												
汚泥	脱水機B	H16	15	0	3												
処理	脱水機C	H16	15	0	2												
設備	油圧ユニットA	H17	14	0	4												
	油圧ユニットB	H17	14	0	3										•		
	油圧ユニットC	H17	14	0	3											•	
	オイルタンク A	H17	14	0	0												
	オイルタンクB	H17	14	0	0												
	オイルタンク C	H17	14	0	0												
	脱水汚泥移送装置(1)	H16	15	0	1												
	脱水汚泥移送装置(2)	H16	15	1	1							•					
	脱水汚泥移送装置(3)	H16	15	0	1												
	オートストレーナA	H17	14	0	1												
	オートストレーナB	H17	14	0	0												
	オートストレーナC	H17	14	0	0												
	ろ液槽散気装置	H17	14	0	0												
	ろ布洗浄水ポンプA	H17	14	0	2								•				
	ろ布洗浄水ポンプB	H17	14	0	2								-				
	ろ布洗浄水ポンプC	H17	14	0	2								-				
	ろ布洗浄水ポンプS	H17	14	0	2								-				
L	洗浄水槽散気装置	H17	14	0	0												

【角	第2処理棟】設備	設置	経過	H20 R元4)~ 年度			H20	~R元年度	の整備内	容		●: 更新	■: 4	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	ろ液移送ポンプA	H17	14	0	2								-				
汚	ろ液移送ポンプB	H17	14	0	2												
泥処	分離液貯留槽散気装置	H17	14	0	0												
理設	分離液移送ポンプ(1) A	H17	14	0	3		•				•				•		
備	分離液移送ポンプ(1) S	H17	14	0	3										•		
	分離液移送ポンプ(2)	H17	14	0	3		•				•				•		
	高濃度臭気ファン	H17	14	0	2								-				
	生物脱臭塔シールポット	H16	15	0	0												
	生物脱臭塔	H16	15	0	0												
	生物脱臭塔充填材	H16	15	2	0					•				•			
	硫酸貯槽	H16	15	0	0												
	硫酸注入ポンプ (脱臭用) A	H15	16	0	0												
	硫酸注入ポンプ (脱臭用) B	H15	16	0	0												
	酸洗浄塔	H15	15	0	0												
	酸洗浄塔充填材	H15	15	0	0												
	アルカリ洗浄塔	H15	15	0	0												
	アルカリ洗浄塔充填材	H15	15	0	0												
	次亜塩素酸Na注入ポンプ (脱臭用) A	H27	4	1	0								•				
	次亜塩素酸Na注入ポンプ (脱臭用) B	H27	4	1	0								•				
	アルカリ次亜塩循環 ポンプA	R元	0	1	3			-									•
脱	アルカリ次亜塩循環 ポンプB	R元	0	1	3			-									•
臭設	苛性ソーダ注入ポンプ (脱臭用) A	H15	16	1	0							•					
備	苛性ソーダ注入ポンプ (脱臭用) B	H15	16	1	0							•					
	酸循環ポンプA	R元	0	1	3												•
	酸循環ポンプB	R元	0	1	3												•
	ミストセパレーター	H15	16	0	0												
	ミストセパレーター充填材	H15	16	0	0												
	中濃度臭気活性炭脱臭塔	H16	15	0	0												
	中濃度臭気ファン	H17	14	0	2								•				
	中濃度臭気活性炭 脱臭塔活性炭	H16	15	0	0												
	低濃度臭気ファン	H17	14	0	2								•				
	低濃度臭気活性炭 脱臭塔 A	H16	15	0	0												
	低濃度臭気活性炭 脱臭塔 B	H16	15	0	0												
	低濃度臭気活性炭脱臭塔 A活性炭	H16	15	0	0												
	低濃度臭気活性炭脱臭塔 B活性炭	H16	15	0	0												
	バキューム車排臭 捕集装置A	H16	15	1	0								● ホースノス゛ル				
	バキューム車排臭 捕集装置B	H16	15	1	0								● ホースノス゛ル				

(その7)

【 含	第2処理棟】設備	設置	経過)~ 年度			H20	~R元年度	で 整備内	容		●: 更新	■:3	整備		
	機器名称	年度	年数		整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
脱	バキューム車排臭 捕集装置 C	H16	15	1	0								● ホースノス゛ル				
臭設		H16	15	1	0								● ホースノス゛ル				
備	臭突	H17	14	0	0												
	プロセス用水ポンプA	H30	1	1	4			•		-		•				•	
	プロセス用水ポンプB	H30	1	1	4					•		•				•	
	計装コンプレッサーA	H28	3	1	0									•			
	計装コンプレッサーB	H16	15	0	0												
	エアドライヤー	H28	3	1	0									•			
取	床排水ポンプD	H16	15	0	0												
排水	床排水ポンプE	H30	1	1	0											•	
	床排水ポンプF	H27	4	1	0								•				
	床排水ポンプG	H16	15	0	0												
	床排水ポンプH	H16	15	0	0												
	床排水ポンプ I (受入室入口)	H16	15	0	0												
	床排水ポンプ J (受入室出口)	H30	1	1	0											•	
	し渣ホッパ	H15	16	0	2								•				
	し渣ホッパインバータ	H15	16	0	0												
	汚泥ホッパ	H15	16	0	1								•				
	汚泥ホッパインバータ	H15	16	0	0												
	予備処理タンク	H15	16	0	1												
	予備処理タンク撹拌機	H15	16	0	0												
	集水ピットA	H17	14	0	0												
	集水ピットB	H17	14	0	0												
	集水ピットC	H17	14	0	0												
	消泡剤受けホッパ	H15	16	0	0												
資源化	薬注タンク	H15	16	0	0												
設備	ベントコンデンサ	H15	16	0	0												
	反応釜 (クッカー)	H15	16	0	8						-		-		•	•	
	ミストキャッチャー	H15	16	0	8					•	-		-		•	•	
	反応釜油圧ユニット	H15	16	0	0												
	原料投入配管(予備処理 タンク~反応釜)	H30	1	1	1										-	•	
	反応釜真空調節弁	H30	1	1	0											•	
	反応釜蒸気流量弁c	H16	15	0	0												
	反応釜蒸気流量弁d	H16	15	0	0												
	粗油分離装置 (移送+破砕)	H15	16	0	2					-						-	
	粗油分離装置aインバータ	H15	16	0	0												
	油切下タンク	H15	16	0	6					•			-	•	-	•	

(その8)

【复	第2処理棟】設備	設置	経過	H20 R元:)~ 年度			H20)~R元年度	で の整備内	容		●:更新	■:	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	油切下タンク撹拌機	H15	16	0	1						•						
	油分離汚泥移送装置-1	H30	1	1	5					•			•	•		•	
	脱油プレス	H16	15	0	6		•		•		•		•				-
	ケトル	H15	16	0	3					•			•				-
	フィーダー	H15	16	0	2					•							-
	フィーダーインバータ	H15	16	0	0												
	脱油プレス油圧ユニット	H15	16	0	0												
	脱油プレス圧力	H16	15	0	0												
	プレス下タンク	H15	16	0	0												
	ブレス下タンク撹拌機	H15	16	0	0												
	油戻しポンプA	H17	14	0	5					•			•				
	油戻しポンプB	H17	14	0	5		•			•			-		•		
	油戻しポンプAインバータ	H15	16	0	0												
	油戻しポンプBインバータ	H15	16	0	0												
	油分離汚泥移送装置-2	H15	16	0	11		-	-	•	•		-	•	•	•	•	
	冷却機(ミールクーラー)	H15	16	0	2											-	
	冷却機 (ミール クーラー) インバータ	H15	16	0	0												
資	ful of the total	H15	16	0	2					-							-
源化	し渣用製品ホッパ	H15	16	0	1												
設備	し渣用製品ホッパインバータ	H15	16	0	0												
	汚泥用製品ホッパ	H15	16	0	0												
	汚泥用製品ホッパインバータ	H15	16	0	0												
	計量器	H15	16	0	2	-						-					
	製品コンベヤ	H15	16	0	1					•							
	製品コンベヤインバータ	H15	16	0	0												
	計装用コンプレッサ	H17	14	0	0												
	油分離液移送ポンプA	H17	14	0	5		-						-				
	油分離液移送ポンプB	H17	14	0	5		•						-				•
	油分離液移送ポンプA インバータ	H15	16	0	0												
	油分離液移送ポンプB インバータ	H15	16	0	0												
	油分離液タンク	H15	16	0	3					•		-				-	
	油分離液タンク撹拌機	H15	16	0	0												
	油分離液供給ポンプA	H17	14	0	4		•			•			•			•	
	油分離液供給ポンプB	H17	14	0	4		•			•			-			-	
	油分離液供給ポンプA インバータ	H15	16	0	0												
	油分離液供給ポンプB インバータ	H15	16	0	0												
	ドレン回収装置	H15	14	0	1												■安全弁

【角	第2処理棟】設備	設置	経過	H20 R元 ⁴)~ 年度			H20)~R元年度	の整備内	容		●: 更新	■:3	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	ドレンポット	H16	15	0	0												
	ドレンポンプ1	H15	16	0	0												
	ドレンポンプ 2	H15	16	0	0												
	遠心分離機	H17	14	0	5			-			-		-		•		-
	サンプリング	H17	14	0	0												
	油受タンク	H15	16	0	0												
	分離油移送ポンプA	H17	14	0	4		•						•			•	
	分離油移送ポンプB	H17	14	0	4								•			•	
	分離油移送ポンプA インバータ	H15	16	0	0												
	分離油移送ポンプB インバータ	H15	16	0	0												
	油計量タンクA	H15	16	0	2											•	
	油計量タンクB	H15	16	0	2											•	
	油計量タンクA撹拌機	H15	16	0	0												
	油計量タンクB撹拌機	H15	16	0	0												
	加油ポンプA	H17	14	0	4							•					
	加油ポンプB	H17	14	0	5				•			•	■配管				
	加油ポンプAインバータ	H15	16	0	0												
資	加油ポンプBインバータ	H15	16	0	0												
源化設	油分離残渣移送装置	H15	16	0	2											•	
備	凝縮器 (コンデンサー)	H16	15	0	3									•		-	
	熱交換機A	H17	14	0	0												
	熱交換機B	H17	14	0	0												
	ラインポンプ	H17	14	0	0												
	ラインポンプ	H15	16	0	0												
	凝縮水ポンプA	H17	14	0	3		•				-				•		
	凝縮水ポンプB	H17	14	0	3		•				-				•		
	凝縮水タンク	H16	15	0	0												
	凝縮水移送ポンプA	H17	14	0	3						-						
	凝縮水移送ポンプB	H17	14	0	3		•				-				•		
	真空ポンプA	H17	14	0	5			•				-		•		-	
	真空ポンプB	H17	14	0	5			•				•				•	
	水槽	H17	14	0	0												
	冷却水循環ポンプA	H17	14	0	4								-			-	
	冷却水循環ポンプB	H17	14	0	4								•				
	冷却装置A	H17	14	0	0												
	冷却装置B	H17	14	0	0												
	冷却装置C	H17	14	0	0												

表2.3.2(2) 維持補修実績(第2処理棟:機械設備)

(その10)

【 第	第2処理棟】設備	設置	経過	H20 R元4)~ 年度			H20	~R元年度	の整備内	容		●: 更新	■:4	整備		
	機器名称	年度	年数	更新	整備	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
	冷却装置D	H17	14	0	0												
	補給水ポンプ	H15	16	0	0												
	燃焼脱臭装置	H16	15	0	1												•
	燃焼脱臭排気ファン	H17	14	0	0												
	燃焼脱臭設備ブロワ	H16	15	0	2		•						•				
	燃焼バーナー	H16	15	0	0												
	燃焼脱臭装置重油 サービスタンク	H16	15	0	0												
	煙突	H16	15	0	1											■ 煙道配管	
	ボイラー設備	H17	14	0	1												
	ボイラー設備重油ポンプ	H17	14	0	0												
資	メタンガス監視装置	H23	8	0	0												
源化設	ホットウェルタンク	H15	16	0	0												
備	軟水器	H15	16	0	0												
	受水槽	H15	16	0	0												
	送水ポンプA	H16	15	0	4												
	送水ポンプB	H16	15	0	4												
	燃焼脱臭装置重油ポンプA	H17	14	0	0												
	燃焼脱臭装置重油ポンプB	H17	14	0	0												
	重油タンク	H16	15	0	0												
	重油サービスタンク	H16	15	0	0												
	重油ポンプA	H17	14	0	0												
	重油ポンプB	H17	14	0	0												
	空気槽	H16	15	0	0												
	受入室前入口舗装	_	_	0	1												
その	前処理機側溝グレーチング 蓋設置	H29	2	0	1												
他	クリタックシステム	H29	2	0	1												UPS
	電気設備	_	_	0	0												

第3章 施設保全計画

第1節 重要度の評価項目・基準

し尿処理施設は多種多様な設備装置で構成されており、その特性、機能、役割等により 重要度が異なる。施設を効果的に保全管理するためには、構成する設備・機械等について 重要性を検討し、主要な設備・機器を選定することが必要となる。

重要度の決定には、施設の安定運転を行うことは当然ながら、故障が発生した場合の環境面、安全面、保全面、コスト面等への影響を総合的に考慮する。具体的には、各設備・機器について、表3.1.1に示す評価要素ごとに評価を表3.1.2に示す3段階に分類した。

評価要素 故障等によって生じる影響 ・運転不良や精度・能力・機能低下等による施設運転停止 安定運転 注) 性能を確保できないための停止を含む。交互運転機等で対応できる場 合などは影響小とする。 ・騒音、振動、悪臭による周辺環境の悪化 環境面 ・薬品、重油、汚水、廃棄物漏えい等による周辺環境の汚染 注) 放流水、排ガスの影響は、施設の正常運転により担保されるので、対 象としない。 人身災害の発生 安全面 (酸欠、硫化水素、オゾン、薬品、爆発、高温、感電、感染等) ・補修等に施設の停止が必要 保全面 ・部品の調達に長時間が必要 ・補修等に多大な費用が必要 コスト面

表3.1.1 重要度の評価項目

表3.1.2 重要度の評価基準

評価		機器の特徴
高	Α	故障した場合に施設の運転停止に結びつく可能性の
重	A	ある設備及び機器
要度		故障した場合でも予備機対応が可能であるなど、あ
低	В	る程度の冗長性を有するもの。施設稼動に重要で、
		修繕に日数を要し、かつ高価な設備及び機器
	С	A及びBに分類されるもの以外の設備・機器

第2節 保全方式の選定

設備・装置の重要度等を踏まえて適切な保全方法の組合せを決定する。各保全方式と適用の留意点は、表3.2.1に示すとおりである。

設備・機器の重要度の高いものほど、保全方式としては事後保全よりは予防保全を選択する必要がある。

表3.2.1 保全方式と適用の留意点

	保全方式	保全方式選定の留意点	設備・機器例
事後保全 (BM)		・故障してもシステムを停止せずに 容易に保全可能なもの(予備系列 に切り替えて保全できるものを含 む)。 ・保全部材の調達が容易なもの。	照明装置、予備系列 のあるポンプ類、汎 用性のある機器類
予防保全	時間基準保全(TBM)	・具体的な劣化の兆候を把握しにくい、あるいはパッケージ化されて消耗部のみのメンテナンスが行いにくいもの。・構成部品に特殊効果があり、その調達期限があるもの。	コンプレッサ、ブロ ワ等回転機器類、前 処理機や脱水機等の 大型特殊機器、電気 計装部品、電気基板 等
(PM)	状態基準保全 (CBM)	・摩耗、破損、性能劣化が日常稼働 中あるいは定常点検において、定 量的に測定あるいは比較的容易に 判断できるもの	駆動部のない(少ない)機器、製缶物機器類、配管・バルブ類、RC製水槽類の劣化・腐食等

*1) 事後保全 (BM): Breakdown Maintenance

*2) 予防保全 (PM): Prevention Maintenance

*3) 時間基準保全 (TBM): Time-Based Maintenance

* 4) 状態基準保全 (CBM): Condition-Based Maintenance

第3節 機能診断手法の検討

主要設備・機器における劣化予測・故障対策を的確に行うため、表3.3.1~3.3.2に示す機能診断手法の中から、各設備・機器に必要な機能診断技術を検討し、機器別管理基準に反映する。

表3.3.1 機能診断技術(RC水槽)

項目	診断項目	測定項目	診断技術	実施頻度
予備調査	防食被覆層の健	防食被覆層の剥離・割	目視、指触、ハン	定期/異常
	全度	れ・膨れ、コンクリート	マリング(検打)	時
		の軟化、コンクリート腐		
		食生成物の析出有無		
	コンクリート表	コンクリート軟化、コン	目視、指触、ハン	定期/異常
	面の健全度	クリート腐食生成物・表	マリング(検打)	時
		面荒れ(骨材露出)・鉄筋		
		の錆汁・ひび割れ・漏水		
		等の有無		
詳細調査	コンクリート劣	コンクリート中性化深	フェノールフタ	異常時
	化度	さ	レイン検査	
	コンクリート圧	コンクリート表面強度	シュミットハン	異常時
	縮強度(推定値)		マ検査	
	コンクリート劣	ひび割れ幅、ひび割れ発	目視、計測	異常時
	化度	生範囲		
	鉄筋の健全度	鉄筋腐食状況	はつり出し目視	異常時
			検査	
	コンクリート部	コンクリート圧縮強度	コンクリートコ	異常時
	材強度		ア圧縮強度試験	

表3.3.2 機能診断技術 (機械設備)

設備・機器	診断項目	測定項目	診断技術	実施頻度
高速回転機器	・回転バランスの良否 ・回転軸の状況の良否 ・軸受け等の摩耗状況	振動速度 加速度 周波数	振動法	 ・重要度A機器は 定期実施*1 ・その他機器は異常時実施*2
回転機器	・軸受け等の摩耗状況 ・ギヤ噛合状況の良否 ・流体の流れ状況	聴音器・棒	音響法	・重要度A機器は 定期実施*1・その他機器は異 常時実施*2
	・軸受け等の摩耗状況	温度	温度測定	・重要度A機器は 定期実施*1・その他機器は異 常時実施*2
活性炭脱臭塔配管・ダクト類バルブ類	・設備機器や配管・バルブ等の閉塞状況	関連配管・ダクト内の圧力	圧力損失測 定	· 異常時実施 ^{※ 3}
焼却炉 乾燥機 熱風炉 脱臭炉	・ケーシング温度 ・耐火物・断熱材の摩 耗、ひび割れ等	表面温度	接触温度測定	•定期実施*1
受変電盤 動力制御盤 設備機器全般	・主回路全体の対地絶 縁特性	抵抗値	絶縁抵抗測定	 重要度A機器は 定期実施*1 その他機器は異 常時実施*2
電動機	・電流値の異常(過負 荷等)	電流値	電流測定試験	 ・重要度A機器は 定期実施*1 ・その他機器は異 常時実施*2
主要処理設備機器	・設備機器の有する性 能確認と異常の発 見	水質・汚泥等の分析	水質分析法	•定期実施*4
汚泥配管 汚水配管	・配管内の閉塞等	流体流速	流速計によ る測定	·異常時実施 ^{※3}

※1:定期実施の実施頻度は機器メーカの推奨値による。

※2: 五感検査(目視、異音、異臭、触診等)等は日常的に実施する。

※3:流体の性質上閉塞が見込まれる箇所、流速の精度が要求される箇所等については定期的に実施する。

※4:実施頻度は項目により異なる。

第4節 機器別管理基準

主要設備・機器の補修・整備の履歴、故障データ、劣化パターン等から、主要な設備・機器ごとに診断項目、保全方式、管理基準(評価方法、管理値、診断頻度等)を設定する。 設定した結果は、表3.4.1~3に示すとおりである。

設備·機器別管理規準(第1処理棟:RC設備) 表3.4.1(1)

工	設備名称		診断項目	1	保全方式	ť	Î	管理基準		経過	耐用年数
程	议 州·石 //\	対象箇所	砂脚項目	ВМ	ТВМ	СВМ		管理値	診断頻度	年数	(参考)**2
受入	沈砂ピット(し尿) し尿受入槽 し尿貯留槽	防食塗装	劣化、腐食			0	著しい劣化(膨れ)、剥離がないこと コンクリート腐食が進	ル「進展期」以下※1	1回/3年	36年	12~15年
• 貯	沈砂ピット(浄化槽汚泥)						行していないこと				
留	浄化槽汚泥受入槽 浄化槽汚泥貯留槽	劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと		1回/3年		
主	第一撹拌槽 第一曝気槽	防食塗装	劣化、腐食			0	著しい劣化(膨れ)、剥離がないこと	ル「進展期」以下※1	1回/3年	36年	12~15年
一処理	第二撹拌槽 第二曝気槽						コンクリート腐食が進 行していないこと				
生	沈殿槽 スカム槽	劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと		1回/3年		
	混和槽 凝集槽	防食塗装	劣化、腐食				著しい劣化(膨れ)、剥 離がないこと	防食技術マニュア ル「進展期」以下**1	1回/3年	36年	12~15年
高度処	加圧浮上槽 加圧浮上槽スカム槽 オゾン処理原水槽 オゾン反応槽 ろ過原水槽					©	コンクリート腐食が進 行していないこと				
理	活性炭原水槽 活性炭処理水槽 活性炭受槽 逆洗排水槽	劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと	目視判断	1回/3年		
消		防食塗装	劣化、腐食				著しい劣化(膨れ)、剥 離がないこと	防食技術マニュア ル「進展期」以下**1	1回/3年	36年	12~15年
毒	接触槽放流ピット					0	コンクリート腐食が進 行していないこと				
流		劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと	目視判断	1回/3年		
汚		防食塗装	劣化、腐食				著しい劣化(膨れ)、剥離がないこと	防食技術マニュア ル「進展期」以下**1	1回/3年	36年	12~15年
泥処	汚泥濃縮槽 汚泥貯留槽					0	コンクリート腐食が進 行していないこと				
理	排水槽	劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと	目視判断	1回/3年		
	沢水取水用沈砂槽A,B	防食塗装	劣化、腐食				著しい劣化(膨れ)、剥 離がないこと	防食技術マニュア ル「進展期」以下**1	1回/3年	36年	12~15年
	取水ポンプピット 受水槽					0	コンクリート腐食が進 行していないこと				
	管理棟排水槽	劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと	目視判断	1回/3年		
その	処理棟建屋 (外壁)	劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと	目視判断	1回/3年	36年	_
	吹き付けアスベスト	劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと	目視判断	1回/3年	36年	_
	処理棟屋根	屋根防水	劣化		0	0	著しい変形、劣化、漏 水がないこと	目視判断	1回/3年	36年	_
	管理棟屋根	屋根防水	劣化		0	0	著しい変形、劣化、漏 水がないこと	目視判断	1回/3年	36年	=
	薬品ヤード	劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと	目視判断	1回/3年	36年	=

保全方式:BM 事後保全、TBM 時間基準保全、CBM 状態基準保全

◎推奨方式、○有力な保全方式の1つ、△必要に応じて選択する

※1:「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル(平成29年12月)」p.176参照 ※2:引用文献:廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き(し尿処理施設・汚泥再生処理センター編) 廃棄物処理施設保守点検の手引きーし尿編ー 昭和61年度廃棄物処理施設技術管理者等地方ブロック別研修会テキスト

				保	全力	i式		基準			
工程	設備名称	対象箇所	診断項目	ВМ	T B M	C B M	評価方法	管理値	診断 頻度	経過 年数	耐用年数 (参考) [※]
	し尿・浄化槽 口		腐食、変形	0		0	著しい腐食、変形がないこと と 正常に動作すること	目視判断 動作状況確認	1回/3年	36年	7~10年
	沈砂除去装 置	真空ポン プ	腐食、摩耗、劣化			0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
		洗浄装置	腐食、摩耗	0			性能が低下してないこと 著しい腐食、穴あき等が	目視判断	1回/3年	36年	10~15年
	し尿・浄化槽	香港 泥破砕	腐食、摩			0	ないこと 異常音、振動、発熱、腐	目視、触診確認	1回/3年	13年	7~10年
八· 貯留	装置		耗、劣化 腐食(機 内)、部品 類摩耗		0	_	食等がないこと 部品類の著しい腐食や摩 耗等がないこと。	動作状況確認 メーカ基準値	1回/年		
			性能		0		性能が低下してないこと 正常に動作すること	メーカ基準値	1回/年		
	し尿・浄化槽 ポンプ	誇泥投入	摩耗、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
	し尿・浄化槽 ム破砕ポンフ		摩耗、腐食	0			異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	2年	7~10年
	希釈調整槽		腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、穴あき等が ないこと	目視判断	1回/3年	2年	7~10年
	ガス撹拌ブロ	リワ	摩耗、腐食		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	9年	7~10年
	ガスフィルタ	<i>?</i>	劣化、腐食	0		0	腐食、漏れ、変形、亀裂 のないこと	目視判断	1回/3年	14年	7~10年
	ガスシールタ	ソンク	劣化、腐食	0		0	腐食、漏れ、変形、亀裂 のないこと	目視判断	1回/3年	35年	10~15年
	曝気ブロワ		摩耗、腐食		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
標準	苛性ソーダ貯	宁槽	劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	10年	10~15年
一脱室	苛性ソーダ注	三入ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	5年	7~10年
	循環液ポンフ	P	腐食、摩耗		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	7年	7~10年
	消泡スプレー	-ポンプ	腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視判断	1回/3年	_	7~10年
	沈殿槽汚泥 掻寄機	気相部	腐食、摩耗			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	動作状況確認	1回/3年	6年	10~15年
		液面下部	腐食、摩耗		0		腐食、変形、摩耗等がないこと	目視判断	1回/7年		
	返送汚泥ポン	プ	腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	2年	7~10年
	余剰汚泥引抜	マポンプ 	腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年

				保	全力	式	管理	基準			
程	設備名称	対象箇所	診断項目	B M	Т В М	C B M	評価方法	管理値	診断 頻度	経過 年数	耐用年数 (参考) [※]
	メタノール貯	·槽	劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	35年	10~15年
標準的	メタノール注		劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年		7~10年
脱窒素	メタノール移	送ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
処理	消泡剤貯槽		腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、穴あき等が ないこと	目視判断	1回/3年	14年	10~15年
	消泡剤注入ホ	ポンプ 	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	23年	7~10年
	気液分離槽		腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、穴あき等が ないこと	目視判断	1回/3年	0年	10~15年
	加圧水ポンフ		劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	2年	7~10年
	加圧用コンフ	゚゚レッサ	腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、動作状況 確認 メーカ基準値	1回/3年	0年	7~10年
凝	加圧浮上槽汚	泥掻寄機	腐食、摩耗			0	異常音、振動、腐食、変 形、摩耗等がないこと	動作状況確認 目視判断	1回/3年	6年	10~15年
集分	スカム移送ホ	パンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	0年 /2年	7~10年
	硫酸バンド貯	·槽	劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	10年	10~15年
	硫酸バンド注	入ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	4年	7~10年
	高分子凝集溶	解槽	劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	35年	10~15年
	高分子凝集剤 プ		劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	4年	7~10年
	混和槽苛性ソ ポンプ		劣化、腐食	\circ		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	5年	7~10年
	オゾン発生機		劣化		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、動作状況 確認 メーカ基準値	1回/3年	16年	7~10年
	オゾン処理原	水ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年 /4年	7~10年
ゾ	消泡槽		劣化、腐食			0	腐食、漏れ、変形、亀裂 等がないこと	目視判断	1回/3年	35年	10~15年
ン酸ル	泡沫水ポンフ	o	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	0年	7~10年
化	一次・二次水	:洗塔	劣化、腐食			0	変形、亀裂、腐食、臭気漏れ等がないこと	目視判断	1回/3年	35年 /16年	10~15年
	排オゾン分解	塔	劣化、腐食		0	0	変形、亀裂、腐食、臭気 漏れ等がないこと 排オゾン濃度が管理値以 内であること	目視判断	1回/3年	16年	10~15年
プ ル	砂ろ過原水ホ	パンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	1年	7~10年
砂ろ過	砂ろ過器		劣化、腐食			0	腐食、漏れ、穴あき、変形 がないこと	メーカ基準値	1回/3年	35年	10~15年
吧	逆洗ポンプ		劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	5年	7~10年

(その3)

				保	全力	式式		 基準			
工程	設備名称	対象箇所	診断項目	ВМ	T B M	C B M	評価方法	管理値	診断 頻度	経過 年数	耐用年数 (参考) [※]
活	活性炭吸着原	京水ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	動作状況確認	1回/3年	0年 /7年	7~10年
性炭血	活性炭吸着塔	î	劣化、腐食			0	腐食、漏れ、穴あき、変形 がないこと	メーカ基準値	1回/3年	35年	10~15年
処理	逆洗排水移送	ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
	次亜塩素酸ソ	'ーダ貯槽	劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	10年	10~15年
2017	シュウ酸注入	ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	_	7~10年
消毒	消毒次亜注入	ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	0年	7~10年
放流	放流ポンプ		劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	4年 /3年	7~10年
1016	サンプリンク	゛ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	2年	7~10年
	消雪ポンプ		劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	_	7~10年
	汚泥濃縮槽 汚泥掻寄機	気相部	腐食、摩耗			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	動作状況確認	1回/3年	15年	10~15年
汚		液面下部	腐食、摩耗		0		腐食、変形、摩耗等がないこと	目視判断	1回/7年	14年	10~15年
泥処理	濃縮汚泥引抜	ポンプ	腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
	汚泥移送ポン	プ	腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年 /16年	7~10年
	供給ホッパ		摩耗、腐食			0	著しい腐食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	15年	7~10年
	バケットエ レベータ		摩耗、腐食			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認	1回/3年	15年	7~10年
資	供給コンベヤ	•	摩耗、腐食			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認動作状況確認	1回/3年	15年	7~10年
源	1kg・20kg用 袋詰装置	自動計量	摩耗、腐食			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認	1回/3年	15年	10~15年
	傾斜コンベヤ	•	摩耗、腐食			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認	1回/3年	15年	7~10年
	整形コンベヤ	•	摩耗、腐食			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認動作状況確認	1回/3年	15年	7~10年
	ロボットパレ	タイザ	摩耗、腐食			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認動作状況確認	1回/3年	15年	10~15年
	集塵機		摩耗、腐食			0		目視、触診確認動作状況確認	1回/3年	15年	7~10年
	コンプレッサ	•	摩耗、腐食			0		目視、動作状況 確認	1回/3年	16年	7~10年

表3.4.1(1) 設備・機器別管理規準(第1処理棟:機械設備)

(その4)

				保	全力	i式	管理	基準			
工程	設備名称	対象箇所	診断項目	ВМ	Т В М	C B M	評価方法	管理値	診断 頻度	経過 年数	耐用年数 (参考) [※]
濃度	高濃度臭気吹		摩耗、腐食		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
臭気	ガスフィルタ	•	摩耗、腐食			0	著しい腐食、摩耗等がな いこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	10~15年
	低濃度臭気脱	臭ファン	異音、振 動、腐食		0	0	異音、振動、発熱、腐食 等がないこと 性能が低下してないこと	動作状況確認メーカ基準値	1回/年	4年	7~10年
	No. 1酸洗浄脱	. 臭塔	劣化、腐食			0	変形、亀裂、腐食、臭気漏れ等がないこと	目視判断	1回/3年	35年	10~15年
	No. 1酸循環ポ	ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	8年	7~10年
低濃	アルカリ次亜	脱臭塔	劣化、腐食			0	変形、亀裂、腐食、臭気 漏れ等がないこと	目視判断	1回/3年	35年	10~15年
度臭	アルカリ循環	ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	8年	7~10年
気	硫酸貯槽		劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	14年	10~15年
	No. 1酸注入ポ	ドンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	16年	7~10年
	苛性ソーダ注		劣化、腐食	\circ		0	異常音・振動がないこと	動作状況確認	1回/3年	5年	7~10年
	No. 1活性炭脱		劣化、腐食			0	変形、亀裂、腐食、臭気漏れ等がないこと		1回/3年	r	10~15年
	処理水槽臭気 ン	脱臭ファ	異音、振 動、腐食		0	©	異音、振動、発熱、腐食等がないこと 性能が低下してないこと	動作状況確認メーカ基準値	1回/年	3年	7~10年
	No. 2酸洗浄脱		劣化、腐食			0	変形、亀裂、腐食、臭気 漏れ等がないこと	目視判断	1回/3年	35年	10~15年
処理水	No. 2酸循環ポ	ドンプ	腐食、摩耗		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	8年	7~10年
村臭気	No. 2酸注入ホ	ドンプ	腐食、摩耗		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値			7~10年
	No. 2活性炭脱		劣化、腐食			0	変形、亀裂、腐食、臭気 漏れ等がないこと		1回/3年		10~15年
	エンジン排ガ ファン	「ス吸引	異音、振 動、腐食		0	0	異音、振動、発熱、腐食 等がないこと 性能が低下してないこと	動作状況確認メーカ基準値	1回/年	14年	7~10年

保全方式: BM 事後保全、TBM 時間基準保全、CBM 状態基準保全 ◎推奨方式、○有力な保全方式の1つ、△必要に応じて選択する

経過年数欄の/は複数台あり、それぞれの整備年度が異なるため

※:引用文献:廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き(し尿処理施設・汚泥再生処理センター編) 廃棄物処理施設保守点検の手引き-し尿編-昭和61年度廃棄物処理施設技術管理者等地方ブロック別研修会テキスト

表3.4.1(2) 設備・機器別管理規準(第2処理棟:RC設備)

I	設備名称		診断項目 BM TBM CBM 評価方法 管理値 診断頻度 年		経過	耐用年数					
程	政佣石桥	対象箇所	R2 121 24 E	ВМ	ТВМ	СВМ			10 17177104	$\overline{}$	(参考)**2
貯	沈砂槽(し尿) 沈砂槽(浄化槽汚泥) し尿受入槽 浄化槽汚泥 受入槽 し尿貯留槽	防食塗装	劣化、腐食			0	著しい劣化(膨れ)、剥離がないこと コンクリート腐食が進行していないこと	防食技術マニュア ル「進展期」以下*1	1回/3年	15年	12~15年
留	浄化槽汚泥 貯留槽	劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと	目視判断	1回/3年		
	硝化脱窒素槽 中継槽 膜分離水槽	防食塗装	劣化、腐食			0	著しい劣化(膨れ)、剥離がないこと コンクリート腐食が進行していないこと	防食技術マニュア ル「進展期」以下**1	1回/3年	15年	12~15年
	返送汚泥ピット処理水槽	劣化・漏水等	劣化			©	著しいクラック、漏水 がないこと	目視判断	1回/3年		
犯	汚泥貯留槽 ろ液槽 洗浄水槽 分雕液貯留槽	防食塗装	劣化、腐食			0	著しい劣化(膨れ)、剥離がないこと コンクリート腐食が進行していないこと	防食技術マニュア ル「進展期」以下**1	1回/3年	15年	12~15年
理		劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと	目視判断	1回/3年		
取排水	受水槽排水槽	防食塗装	劣化、腐食			0	著しい劣化(膨れ)、剥離がないこと コンクリート腐食が進行していないこと	防食技術マニュア ル「進展期」以下**1	1回/3年	15年	12~15年
		劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと	目視判断	1回/3年		
7	施設内廊下	劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと		1回/3年		_
での他	処理棟外壁	劣化・漏水等	劣化			0	著しいクラック、漏水 がないこと		1回/3年		_
	処理棟屋根	屋根防水	劣化		0	0	著しい変形、劣化、漏 水がないこと	目視判断	1回/3年	15年	_

保全方式:BM 事後保全、TBM 時間基準保全、CBM 状態基準保全

◎推奨方式、○有力な保全方式の1つ、△必要に応じて選択する

※1:「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル(平成29年12月)」p. 176参照

※2:引用文献:廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き(し尿処理施設・汚泥再生処理センター編)

廃棄物処理施設保守点検の手引きーし尿編ー

昭和61年度廃棄物処理施設技術管理者等地方ブロック別研修会テキスト

表3.4.1(2) 設備・機器別管理規準(第2処理棟:機械設備)

(その1)

				保	全力	i式	管理基準				(その1)
工程	設備名称	対象箇所	診断項目	В	T B	C B M	評価方法	管理値	診断 頻度	経過 年数	耐用年数 (参考) [※]
	トラックス ケール)	計量器本体	劣化		111	0	腐食、摩耗等著しい劣化 がないこと	目視判断	1回/3年	0年	10~15年
			荷重試験		0			計量法に定める 許容公差	1回/2年		
		データ処 理装置	作動状況			0	動作不良・故障頻度が高 くないこと	システム動作状 況	1回/年	_	5~7年
			老朽化		0		部品供給が可能な期間で あること	メーカ保守可能 期間内	1回/年		
	し尿・浄化槽口	· 持汚泥受入	腐食、変形	0		0		目視判断 動作状況確認	1回/3年	15年	7~10年
	沈砂除去装 置	真空ポンプ	腐食、摩耗、劣化			0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	15年	7~10年
		洗浄装置	腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、穴あき等が ないこと	目視判断	1回/3年		10~15年
	し尿・浄化権 装置	持 汚泥破砕	腐食、摩 耗、劣化			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認	,	/2年	7~10年
			腐食(機 内)、部品類 摩耗		0		部品類の著しい腐食や摩 耗等がないこと。	メーカ基準値	1回/年	/1年	
受入			性能		0		性能が低下してないこと 正常に動作すること	メーカ基準値	1回/年		
· 貯	夾雑物除去装 ドラムスクリ	を置し トン	腐食、摩耗、劣化			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認	1回/3年	16年	7~10年
留	・し尿用 ・浄化槽汚派		腐食(機 内)、部品類 摩耗		0		部品類の著しい腐食や摩 耗等がないこと。	メーカ基準値	1回/2年		
			性能		0		性能が低下してないこと	メーカ基準値	1回/2年		
	夾雑物除去装 スクリューフ		腐食、摩 耗、劣化			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認	,		7~10年
	・し尿用 ・浄化槽汚派	3	腐食(機 内)、部品類 摩耗		0		部品類の著しい腐食や摩 耗等がないこと。	メーカ基準値	1回/2年		
			性能		0		性能が低下してないこと	,	1回/2年		
	夾雑物移送裝	是置	摩耗、腐食			0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認	1回/3年	15年	7~10年
	高圧洗浄ポン	/プ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	1年	7~10年
	温水洗浄タン		摩耗、腐食	0		0	著しい腐食、穴あき等が ないこと	目視判断	1回/3年	·	10~15年
	アルカリ洗剤		摩耗、腐食	0		0	著しい腐食、穴あき等が ないこと	目視判断	1回/3年		10~15年
	アルカリ洗剤		劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	動作状況確認	1回/3年		7~10年
	苛性ソーダ泊	E入ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	16年	7~10年

				保	全方	式	管理基準				
1 程	設備名称	対象箇所	診断項目	ВМ	T B M	С В М	評価方法	管理値	診断 頻度	経過 年数	耐用年数 (参考) [※]
	し尿・浄化槽 槽撹拌ポンフ	٥	摩耗、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
受入・	し尿・浄化槽 ポンプ	汚泥移送	摩耗、腐食	0			異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
	し尿・浄化槽 ポンプ	汚泥投入	摩耗、腐食	0			異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
	エンジン排力置				0		異常音、振動、腐食、摩 耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	_	7~10年
	サンプリング	゙゙゙゙゚ポンプ	腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
	サンプリング	`.槽	腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、穴あき等が ないこと	. , ,	1回/3年		10~15年
	消泡スプレー		腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	動作状況確認	1回/3年		7~10年
	酸素溶解循環	ぱポンプ	腐食、摩耗		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
	消泡剤注入ポ	ジ プ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	16年	7~10年
膜	消泡剤貯槽		腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、穴あき等が ないこと	目視判断	1回/3年	15年	10~15年
分離	メタノールサ ンク	ービスタ	劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	15年	10~15年
高負	メタノール注	入ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
脱	苛性ソーダ貯		劣化				薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年		10~15年
系		主入ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	動作状況確認	1回/3年	16年	7~10年
処理	熱交換器		摩耗、腐食				腐食、亀裂、摩耗、穴あき等の損傷がないこと 性能が低下してないこと	目視判断 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
	冷却塔		摩耗、腐食			\bigcirc	腐食、変形、亀裂等著し い損傷がないこと 性能が低下してないこと	目視判断	1回/3年	15年	7~10年
	冷却水ポンフ	o	摩耗、腐食	0			異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	16年	7~10年
	冷却水自動管	理装置	動作確認腐食			0	動作が正常であること 腐食等の損傷がないこと	動作状況確認	1回/年	·	7~10年
	中継ポンプ		摩耗、腐食	0		_	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年

表3.4.1(2) 設備・機器別管理規準(第2処理棟:機械設備)

(その3)

				保	全力	式	管理基準				
程	設備名称	対象箇所	診断項目	ВМ	Т В М	C B M	評価方法	管理値	診断 頻度	経過 年数	耐用年数 (参考) [※]
	生物膜分離装	置	摩耗、腐食	0	0	0	腐食、損傷、変形、穴開 き、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	3~5年
	透過液吸引水	_、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	摩耗、腐食		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	16年	7~10年
膜分	返送汚泥ポン	<i>゚</i> プ	腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
離高負荷	余剰汚泥引抜	ポンプ	腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
脱窒素	膜分離装置撹		摩耗、腐食		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年 /15年	7~10年
処理	シュウ酸注入	ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	_	7~10年
	次亜塩素酸ナ 貯槽	トリウム	劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	8年	10~15年
	次亜塩素酸ナ 注入ポンプ	トリウム	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	16年	7~10年
	処理水移送ボ	ポンプ	腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
	汚泥貯留槽撹	拌ブロワ	摩耗、腐食		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
	分離液槽撹拌	ピブロワ	摩耗、腐食		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
汚泥	汚泥供給ポン		腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
脱水	硫酸バンド貯	槽	劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	15年	10~15年
· 処理	硫酸バンド注	入ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	4年	7~10年
	Ⅱ剤定量供給	装置	劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	16年	7~10年
	Ⅱ剤溶解槽		劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	15年	10~15年
	Ⅱ剤注入ポン	′プ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
	Ⅰ剤・Ⅱ剤反	応槽	腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、穴あき等が ないこと	目視判断	1回/3年	15年	10~15年

表3.4.1(2) 設備・機器別管理規準(第2処理棟:機械設備)

(その4)

				保	全力	i式	管理基準				
工程	設備名称	対象箇所	診断項目	ВМ	Т В М	С В М	評価方法	管理値	診断 頻度	経過 年数	耐用年数(参考)※
	汚泥脱水機		腐食、摩耗			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	動作状況確認	1回/3年	15年	7~10年
			腐食(機 内)、部品 類摩耗		0		内部に腐食・傷・摩耗がないこと 部品類の著しい腐食や摩	メーカ基準値	1回/2年		
					0		耗等がないこと。 性能が低下してないこと	メーカ基準値	1回/2年		
浐	脱水汚泥移送	装置	摩耗、腐食		0)	0	異常音、振動、腐食、摩	目視、触診確認		15年	7~10年
汚泥	(1)(2)(3) オートストレ		劣化			0	耗等がないこと 性能が低下してないこと	動作状況確認 目視判断	1回/3年	14年	7~10年
水		<i></i>	少少 府舎	0		0	田学文 振動 双拗 府	動作状況確認 目視判断	1回/3年	1.4年	7~10年
処理	ろ布洗浄水ホ	パンプ	劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	動作状況確認	,	,	
	ろ液移送ポン	プ	劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
	分離液移送ポン (1)(2)	ンプ	劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
	し渣ホッパ		摩耗、腐食			0	著しい腐食、摩耗等がな いこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	16年	7~10年
	汚泥ホッパ		摩耗、腐食			0	著しい腐食、摩耗等がないこと		1回/3年	16年	7~10年
	予備処理タンク	ク	摩耗、腐食			0	著しい腐食、摩耗、変 形、亀裂等がないこと		1回/3年	16年	7~10年
	反応釜(クック	カー)	腐食、変形			0	腐食、漏れ、変形、亀裂 等がないこと 性能が低下してないこと	目視、動作状況 確認 メーカ基準値	1回/3年	16年	10~15年
	ミストキャップ		腐食、摩 耗、劣化				著しい腐食、摩耗等がな いこと	目視判断	1回/3年	16年	7~10年
油温	油圧ユニット		腐食、摩 耗、劣化			0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	16年	7~10年
減圧乾燥	粗油分離装置		腐食、摩耗、劣化			0		目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	16年	7~10年
設備	油切下タンク		腐食、摩 耗、劣化				著しい腐食、摩耗等がないこと	目視判断	1回/3年	16年	7~10年
	油分離汚泥移並		腐食、摩耗、劣化			0	異常音、振動、腐食、摩 耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	1年	7~10年
	脱油プレス付き		腐食、摩 耗、劣化			0	著しい腐食、摩耗等がないこと	目視判断	1回/3年	16年	7~10年
	油圧ユニット		腐食、摩耗	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	16年	7~10年

表3.4.1(2) 設備・機器別管理規準(第2処理棟:機械設備)

(その5)

				保	全方	式	管理基準				
1 程	設備名称	対象箇所	診断項目	ВМ	T B M	C B M	評価方法	管理値	診断 頻度	経過 年数	耐用年数 (参考) [※]
	油戻しポンフ	0	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
	油分離汚泥移	送装置-2	腐食、摩耗、劣化			0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	16年	7~10年
	冷却機		腐食、摩 耗、劣化			0	著しい腐食、摩耗等がないこと	目視判断	1回/3年	16年	7~10年
	製品振分コン		摩耗、腐食			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認	,		7~10年
	し渣用製品ホ		摩耗、腐食			0	著しい腐食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年		7~10年
	汚泥用製品ホ		摩耗、腐食			0	著しい腐食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	,	7~10年
	製品コンベヤ	•	摩耗、腐食			0	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認			7~10年
	計量機		摩耗、腐食			0	著しい腐食、摩耗等がないこと いこと 正常に動作すること	目視判断動作状況確認	1回/3年	16年	7~10年
油	油分離液移送	ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
減	油分離液タン	<i>′</i> ク	劣化			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	16年	7~10年
圧乾	油分離液供給	ポンプ	劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
燥設備	蒸気配管		摩耗、腐食	0		0	著しい腐食、摩耗等がないこと 蒸気漏れがないこと	目視判断	1回/3年		7~10年
	遠心分離機		腐食、摩耗、劣化			0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
	油受けタンク		劣化、腐食			0	腐食、漏れ、変形、亀裂 等がないこと	目視判断	1回/3年	16年	7~10年
	分離油移送ホ	ドンプ	劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
	油計量タンク		劣化、腐食			0	薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	·	7~10年
	加油ポンプ		劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年		7~10年
	油分離残渣移	送装置	腐食、摩耗、劣化			0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	16年	7~10年
	凝縮器		摩耗、腐食	0		0	著しい腐食、摩耗等がないこと	目視判断	1回/3年	15年	7~10年

表3.4.1(2) 設備・機器別管理規準(第2処理棟:機械設備)

(その6)

				保	全方	式	管理基準				
工程	設備名称	対象箇所	診断項目	ВМ	T B M	C B M	評価方法	管理値	診断 頻度	経過 年数	耐用年数 (参考) [※]
	熱交換器		摩耗、腐食			0	腐食、亀裂、摩耗、穴あ き等の損傷がないこと 性能が低下してないこと	目視判断 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
	凝縮水ポンプ	0	劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
	凝縮水タンク		劣化、腐食	0		0	漏れ、変形、亀裂等がな いこと	目視判断	1回/3年	15年	7~10年
	凝縮水移送ポ	ピンプ	劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
	真空ポンプ		劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
	冷却水循環ポ	ジンプ	劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年
	冷却装置		腐食、摩耗、劣化			0	腐食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	14年	7~10年
	燃焼脱臭装置	-	腐食、摩耗、劣化			0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	15年	7~10年
温減	燃焼脱臭排気	ファン	異音、振 動、腐食		0	0	異音、振動、発熱、腐食 等がないこと 性能が低下してないこと	動作状況確認メーカ基準値	1回/年	14年	7~10年
乾燥	燃焼脱臭装置	ブロワ	摩耗、腐食		0	0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	15年	7~10年
設備	燃焼バーナ		劣化			0	性能が低下してないこと	動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	15年	7~10年
	燃焼脱臭装置 ビスタンク	重油サー	劣化			0	漏れ、変形、亀裂等がないこと	目視判断	1回/3年	15年	7~10年
	ボイラー		劣化			0	性能が低下してないこと	動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年		7~10年
	ホットウエル	タンク	劣化			0	漏れ、変形、亀裂等がな いこと	目視判断	1回/3年		7~10年
	軟水器		劣化			0		動作状況確認	1回/3年	16年	7~10年
	受水槽		劣化、腐食	0		0	漏れ、変形、亀裂等がないこと	目視判断	1回/3年	16年	12~15年
	送水ポンプ		劣化、腐食	0		0	異常音、振動、発熱、腐 食、摩耗等がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	,	7~10年
	燃焼脱臭設備 プ		劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	,	7~10年
	地下重油タン		劣化、腐食			0	漏れ、変形、亀裂等がないこと	目視判断	1回/3年	,	12~15年
	ボイラー用重 スタンク	油サービ	劣化、腐食			0	漏れ、変形、亀裂等がないこと	目視判断	1回/3年		7~10年
	重油ポンプ		劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	14年	7~10年

表3.4.1(2) 設備·機器別管理規準(第2処理棟:機械設備)

(その7)

				保	全力	i式	管理基準				
工程	設備名称	対象箇所	診断項目	ВМ	Т В М	C B M	評価方法	管理値	診断頻度	経過 年数	耐用年数 (参考) [※]
	高濃度臭気 ファン		異音、振 動、腐食		0	0	異音、振動、発熱、腐食 等がないこと 性能が低下してないこと	動作状況確認メーカ基準値	1回/年	14年	7~10年
	生物脱臭塔		劣化、腐食			0	変形、亀裂、腐食、臭気漏れ等がないこと	目視判断	1回/3年	15年	10~15年
	硫酸貯槽		劣化				薬品漏れ、変形、亀裂等 がないこと	目視判断	1回/3年	15年	10~15年
	硫酸注入ポン	/ プ	劣化、腐食	0			薬品漏れ、異常音・振動 がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	16年	7~10年
	酸・アルカリ	洗浄塔	劣化、腐食			0	変形、亀裂、腐食、臭気漏れ等がないこと	目視判断	1回/3年	15年	10~15年
脱臭	酸・アルカリ プ	循環ポン	腐食、摩耗		0	\circ	異常音、振動、発熱、腐 食等がないこと 性能が低下してないこと	目視、触診確認 動作状況確認 メーカ基準値	1回/3年	0年	7~10年
	ミストセパレ	<i>/</i> ータ	劣化			0	変形、亀裂、腐食、臭気 漏れ等がないこと	目視判断	1回/3年	16年	7~10年
	中・低濃度臭	気ファン	異音、振 動、腐食		0	0	異音、振動、発熱、腐食 等がないこと 性能が低下してないこと	動作状況確認メーカ基準値	1回/年	14年	7~10年
	中濃度臭気活 塔	性炭脱臭	劣化、腐食			0	変形、亀裂、腐食、臭気 漏れ等がないこと	目視判断	1回/3年	15年	10~15年
	低濃度臭気フ	'アン	異音、振 動、腐食		0	0	異音、振動、発熱、腐食 等がないこと 性能が低下してないこと	動作状況確認 メーカ基準値	1回/年	14年	7~10年
	臭突		劣化			0	漏れ、変形、亀裂等がないこと	目視判断	1回/3年	14年	7~10年
11:-	プロセス用水		劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	1年	7~10年
排水	床排水ポンフ	ρ	腐食、摩耗	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	1~ 15年	7~10年
1	搬入車計量装 ンプ	置排水ポ	劣化、腐食	0		0	異常音・振動がないこと	目視判断 動作状況確認	1回/3年	15年 /1年	7~10年

保全方式:BM 事後保全、TBM 時間基準保全、CBM 状態基準保全

◎推奨方式、○有力な保全方式の1つ、△必要に応じて選択する

経過年数欄の/および~は複数台あり、それぞれの整備年度が異なるため

※:引用文献:廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き(し尿処理施設・汚泥再生処理センター編)

廃棄物処理施設保守点検の手引きーし尿編ー

昭和61年度廃棄物処理施設技術管理者等地方ブロック別研修会テキスト

表3.4.2 設備・機器別管理規準(配管・バルブ)

(その1)

設備名称		診断項目		保全方式		管理基準		経過	耐用年数
	対象箇所		ВМ	твм свм	11.1 0-11.1	管理値	診断頻度		(参考)*
し尿系統	配管関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がないこと	目視判断	1回/3年		10~15年
	バルブ関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がなく、正常に開 閉できること	目視判断動作(開閉)確認	1回/3年	_	10~15年
	自動弁関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がなく、正常に作動すること	目視判断作動状況確認	1回/3年	_	7~10年
汚水系統	配管関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がないこと	目視判断	1回/3年	_	10~15年
	バルブ関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がなく、正常に開 閉できること	目視判断動作(開閉)確認	1回/3年	_	10~15年
	自動弁関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がなく、正常に作 動すること	目視判断作動状況確認	1回/3年	_	7~10年
汚泥系統	配管関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がないこと	目視判断	1回/3年		10~15年
	バルブ関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がなく、正常に開 閉できること	目視判断動作(開閉)確認	1回/3年	_	10~15年
	自動弁関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がなく、正常に作 動すること	目視判断 作動状況確認	1回/3年	-	7~10年
空気系統	配管関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がないこと	目視判断	1回/3年	_	10~15年
	バルブ関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がなく、正常に開 閉できること	目視判断動作(開閉)確認	1回/3年	_	10~15年
	自動弁関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がなく、正常に作 動すること	目視判断 作動状況確認	1回/3年	_	7~10年
薬品系統	配管関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がないこと	目視判断	1回/3年	_	10~15年
	バルブ関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がなく、正常に開 閉できること	目視判断動作(開閉)確認	1回/3年	_	10~15年
	自動弁関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がなく、正常に作 動すること	目視判断 作動状況確認	1回/3年	_	7~10年
給水系統	配管関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がないこと	目視判断	1回/3年	_	10~15年
	バルブ関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がなく、正常に開 閉できること	目視判断動作(開閉)確認	1回/3年	_	10~15年
	自動弁関係	腐食、摩耗	0	0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がなく、正常に作動すること	目視判断 作動状況確認	1回/3年	_	7~10年

表3.4.2 設備・機器別管理規準(配管・バルブ)

(その2)

設備名称		診断項目	,	保全方式	ţ	管	理基準		経過	耐用年数
政佣冶小	対象箇所	砂脚坦日	ВМ	ТВМ	СВМ	評価方法	管理値	診断頻度	年数	(参考)**
排水系統	配管関係	腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がないこと	目視判断	1回/3年	_	10~15年
	バルブ関係	腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がなく、正常に開 閉できること	目視判断動作(開閉)確認	1回/3年	_	10~15年
	自動弁関係	腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がなく、正常に作 動すること	目視判断 作動状況確認	1回/3年	_	7~10年
油系統	配管関係	腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がないこと	目視判断	1回/3年	_	10~15年
	バルブ関係	腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がなく、正常に開 閉できること	目視判断動作(開閉)確認	1回/3年	_	10~15年
	自動弁関係	腐食、摩耗	0		(0)	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がなく、正常に作 動すること	目視判断作動状況確認	1回/3年	_	7~10年
臭気系統	配管関係	腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がないこと	目視判断	1回/3年	_	10~15年
	バルブ関係	腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、摩耗等がないこと 漏液がなく、正常に開 閉できること	目視判断 動作(開閉)確認	1回/3年	_	10~15年
	自動弁関係	腐食、摩耗	0		0	著しい腐食、摩耗等が ないこと 漏液がなく、正常に作 動すること	目視判断 作動状況確認	1回/3年	_	7~10年

保全方式:BM 事後保全、TBM 時間基準保全、CBM 状態基準保全

◎推奨方式、○有力な保全方式の1つ、△必要に応じて選択する

※:引用文献:廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き(し尿処理施設・汚泥再生処理センター編)

廃棄物処理施設保守点検の手引き — し尿編 — 昭和 6 1 年度廃棄物処理施設技術管理者等地方ブロック別研修会テキスト

表3.4.3 設備・機器別管理規準(電気・計装設備)

設備名称		診断項目	1	保全方式	t	徨	管理基準		経過年	耐用年数
取 佣 名 你	対象箇所	移断項目	ВМ	ТВМ	СВМ	評価方法	管理値	診断頻度	数※1	(参考)※2
高圧受配電設 備	高圧受電盤	外観点検、増締め		0	0	絶縁抵抗測定による絶 縁抵抗値が管理値以上		1回/年	36年	10~15年
	高圧配電盤	操作機構点検接地線点検		0	0	であること 動作が正常であること		1回/年		10~15年
	高圧変圧器	遮断器試験 継電器試験		0	0			1回/年		10~15年
	進相 コンデンサ盤	絶縁診断		0	0			1回/年		10~15年
低圧配電設備	400V動力主幹 盤	遮断器試験 継電器試験		0	0	絶縁抵抗測定による絶 縁抵抗値が管理値以上		1回/年	36年	10~15年
	200V動力主幹 盤	絶縁診断		0	0	であること 動作が正常であること		1回/年		10~15年
	照明用単相主 幹盤			0	0			1回/年		10~15年
低圧動力設備	動力制御盤	遮断器試験 継電器試験		0	0	絶縁抵抗測定による絶 縁抵抗値が管理値以上		1回/年	36年	10~15年
	現場制御盤	絶縁診断		0	0	であること 動作が正常であること		1回/年		10~15年
	現場操作盤			0	0			1回/年		10~15年
中央監視盤設備	備	動作確認			0	動作が正常であること	動作状況確認	1回/3年	36年	10~15年
データロガ設 備 [※]		動作確認 機能点検			0	動作が正常であること	動作状況確認	1回/3年	3年/ 2年	7~10年
		老朽化		0		部品供給が可能な期間 であること	メーカ保守可能期 間内	1回/3年		
計装設備	液位計	機能点検計器調整			0	機能が正常であること	動作状況確認	1回/年	_	7~10年
	流量計	部品交換			0	機能が正常であること	動作状況確認	1回/年		7~10年
	pH計、ORP計、 MLSS計、温度 計等		0		0	機能が正常であること	動作状況確認	1回/年		7~10年

保全方式:BM 事後保全、TBM 時間基準保全、CBM 状態基準保全

◎推奨方式、○有力な保全方式の1つ、△必要に応じて選択する

※1:データロガ設備の経過年数は上段第1施設/下段第2施設の経過年数を示す

※2:引用文献:廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き(し尿処理施設・汚泥再生処理センター編)

廃棄物処理施設保守点検の手引きーし尿編ー

昭和61年度廃棄物処理施設技術管理者等地方ブロック別研修会テキスト

第5節 健全度の評価、劣化の予測

1 健全度の評価

装置の劣化状況を数値化して評価するための健全度を設定し、現地調査や定期点検設備報告書、各種点検記録の書類調査等から得られた最新の設備・機器の状態をもとに健全度の評価を行った。

健全度とは、各設備・機器の劣化状況を数値化した指標であり、健全度が高いほど状態が良く、健全度が低ければ状態が悪化し、劣化が進行していることを示すものである。 健全度の評価基準は表3.5.1に、設備・機器の健全度評価結果は表3.5.2に示すとおりである。

表3.5.1 健全度の評価基準

健全度	状態	措置
4	支障なし。	対処不要
3	軽微な劣化はあるが、機能に支障なし。	経過観察
2	劣化は進んでいるが、機能回復は可能である。	部分補修・部分交換
1	劣化が進み、機能回復が困難である。	全交換

(その1)

							` '	C()1)
	設備・装置名	形式	数量	設置 年度	保全 方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
	し尿、浄化槽汚泥 受入ピット	RC	2	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
	し尿沈砂槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
	浄化槽汚泥沈砂槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
受入	し尿受入槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
貯留	浄化槽汚泥受入槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食、損傷している	要補修	3
笛 	し尿貯留槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食、損傷している	要補修	3
	浄化槽汚泥貯留槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食、損傷している	要補修	3
	マンホール蓋	FC		S60	СВМ	・受入・貯留工程のマンホール蓋の内 側が腐食している	要補修	3
	第一撹拌槽	RC	4	S60	СВМ	・槽内 (N14) 埋込配管が腐食している	要補修	3
標	第一曝気槽	RC	4	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
準脱充	第二撹拌槽	RC	1	S60	СВМ	・槽内 (D22) 埋込配管が腐食している	要補修	3
窒素処	第二曝気槽	RC	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	沈殿槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
	スカム槽	RC	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	混和槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
凝集	凝集槽	RC	1	S60	СВМ	・槽内壁の一部の鉄筋が露出している ・マンホール枠が腐食している	要補修 要観察	3
分離	加圧浮上槽	RC	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	スカム槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
オゾン	オゾン処理原水槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
酸化	オゾン反応槽	RC	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
砂ろ過	ろ過原水槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
	活性炭原水槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している・槽内埋込配管が腐食している	要観察	3
性炭	処理水槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
吸着	活性炭受槽	RC	1	S60	СВМ	休止中		
	逆洗排水槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
113.	接触槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
· 放 流	放流ピット	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している・槽内壁に亀裂がみられる	要観察 要補修	2

表3.5.2(1) 設備・機器の健全度評価結果表(第1処理棟)

(その2)

	設備・装置名	形式	数量	設置 年度	保全 方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
汚泥	汚泥濃縮槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
処理	汚泥貯留槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
	排水槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している・槽内コンクリートの劣化がみられる	要観察	3
取排	沢水取水用沈砂槽	RC	2	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
水	取水ポンプピット	RC	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	受水槽	RC	1	S60	СВМ	・マンホール枠が腐食している	要観察	3
	薬品ヤード		1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
その他	処理棟吹付アスベスト		1	S60	СВМ	・アスベスト含有材が使用されているが、順次撤去が計画され定期的に作業環境測定及び目視点検を行っており、 支障は認めない。	要観察	3
	処理棟外壁		1	S60	СВМ	・外壁に軽微な亀裂がみられる	要観察	3

健全度: 1 劣化進み、機能回復困難。 2 劣化が進むも、機能回復可能。 3 軽微な劣化あるも機能に支障なし。 4 支障なし

	設備・装置名	形式	数量	設置年度	保全 方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
	し尿受入口	SUS	3	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	浄化槽汚泥受入口	SUS	2	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	沈砂除去装置			S60				
	・真空ポンプ		1	S60	СВМ	・ケーシング、ロータ等が摩耗、腐食 のため更新が指摘されている【令和元 年の点検より】	要補修	2
	・洗浄装置	SUS	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
受入・貯	し尿破砕装置	竪型	2	H18	СВМ	・吐出配管フランジに腐食がみられる ・羽根車、ケーシング等が摩耗、腐食 のため次回更新が指摘されている【令 和元年の点検より】	要補修	2
留	净化槽汚泥破砕装 置	竪型	1	H18	СВМ	・羽根車、ケーシング等が摩耗・腐食 のため次回更新が指摘されている【令 和元年の点検より】		2
	し尿投入ポンプ	軸ネジ	2	H17	СВМ	・モータ、減速機の次回更新が指摘されている【令和元年の点検より】		2
	., , = ,,	軸ネジ	1	H17	СВМ	・モータ、減速機の次回更新が指摘されている【令和元年の点検より】		2
	し尿スカム破砕ポンプ	横型	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	浄化槽汚泥スカム 破砕ポンプ	横型	1	S60	СВМ	・軸周りに軽微な腐食がみられる	要観察	3
	希釈調整槽	SUS	1	H20	СВМ	・点検口に軽微な腐食がみられる	要観察	3
	ガス撹拌ブロワ	ルーツ	2	H22	СВМ	・A号機のロータ部品の次回更新が指摘されている 【令和元年の点検より】		2
	ガスフィルタ	FRP	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
Land	ガスシールタンク	PVC	1	S60	СВМ	・ガスフィルタとガスシールタンク間のダンパーに腐食がみられる	要観察	3
標準脱窒素	曝気ブロワ	ルーツ	3	H17	ТВМ	・モーターブラケットハウジング部の 摩耗が指摘されている 【平成30年の点検より】		3
主処	苛性ソーダ貯槽	FRP	1	H21	СВМ	・損傷等はみられない		4
理	苛性ソーダ注入ポ ンプ	ダイヤ フラム	1	H26	СВМ	・損傷等はみられない		4
	循環液ポンプ	横竪 渦巻	2	H24	ТВМ	・損傷等はみられない		4
	沈殿槽汚泥掻寄機		1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	返送汚泥ポンプ	横竪 渦巻	2	H29	СВМ	・軸周りに軽微な腐食がみられる	要観察	3
	余剰汚泥引抜ポン プ	軸ネジ	1	H17	СВМ	・モータの次回更新が指摘されている 【令和元年の点検より】		2

							` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` `	その4) T
	設備・装置名	形式	数量	設置 年度	保全 方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
標	メタノール貯槽	地下タ ンク	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
準脱	メタノール注入ポ ンプ	プラン ジャ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
窒素	メタノール移送ポ ンプ	軸ネジ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
主処	消泡剤貯槽	PVC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
理	消泡剤注入ポンプ	ダイヤ フラム	6	Н9	СВМ	・損傷等はみられない		4
	気液分離槽	SS	1	H21	СВМ	・損傷等はみられない		4
凝集	加圧水ポンプ	横竪 渦巻	2	H23	СВМ	・A号機の軸周りに腐食がみられる	要補修	3
	加圧用コンプレッ サ	へ゛ビコ ン	2	H23	СВМ	・損傷等はみられない		4
	加圧浮上槽汚泥掻 寄機		1	H21	СВМ	・損傷等はみられない		4
	スカム移送ポンプ	水中	2	S60	СВМ	_		4
	硫酸バンド貯槽	FRP	1	H21	СВМ	・損傷等はみられない		4
	硫酸バンド注入ポ ンプ	ダイヤ フラム	2	H21	СВМ	・損傷等はみられない		4
分	高分子凝集剤溶解 槽	SS	2	H17	СВМ	・溶解槽内側が若干腐食している	要補修	3
	高分子凝集剤注入 ポンプ	ダイヤ フラム	2	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	混和槽苛性ソーダ 注入ポンプ	ダイヤ フラム	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	オゾン発生機		1	H17	ТВМ	・放電盤セルモジュール、冷却ファン 等の更新が指摘されている【令和元年 の点検より】		2
レン	オゾン処理原水ポンプ	横型渦巻	2	H17	СВМ	・A、B 号機の軸周りに腐食がみられる ・地下ポンプ室、オゾン処理水→ろ過原 水槽の配管にピンホールが懸念される	要補修 要観察	2
酸化	消泡槽	SUS	1	H28	СВМ	・液位配管フランジに腐食がみられる ・サポートの基礎が損傷している	要補修	2
	泡沫水ポンプ	横型 渦巻	2	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	一次水洗塔	SUS	1	H28	СВМ	・本体にピンホールが発生している	要補修	2
オゾ	二次水洗塔	FRP	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
を設定し	排オゾン分解塔	FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	砂ろ過原水ポンプ	横型 渦巻	3	H17	СВМ	・3台とも軸周りが腐食している	要補修	2
	砂ろ過器	SS	2	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
過	逆洗ポンプ	横型 渦巻	1	H26	СВМ	・軸周りに腐食がみられる	要補修	2
	活性炭吸着原水ポンプ	横型渦巻	2	H24	СВМ	・A,B号機の軸周りに腐食がみられる	要補修	2
性炭	活性炭吸着塔	SS	2	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
処理	逆洗排水移送ポン プ	軸ネジ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	ブ				C D 171	Dim die / Die or		

							`	て (り5)
	設備・装置名	形式	数量	設置 年度	保全 方式	 損傷等の状況 	診断結果	健全度
	次亜塩素酸ソーダ 貯槽	FRP	1	H21	СВМ	・損傷等はみられない		4
 消 毒	消毒次亜塩注入ポ ンプ	ダイヤ フラム	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	放流ポンプ	横型 渦巻	2	H27	СВМ	・B号機の軸周りに軽微な腐食がみられる	要補修	2
放流	サンプリングポン プ	横型 渦巻	1	H23	СВМ	・軸周りに腐食がみられる	要補修	2
	消雪ポンプ	横型 渦巻	2	H24	СВМ	・損傷等はみられない		4
汚	汚泥濃縮槽汚泥掻 寄機	SS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
泥処	濃縮汚泥引抜ポン プ	軸ネジ	2	H17	СВМ	・モータ、減速機の次回更新が指摘されている【令和元年の点検より】		2
理	汚泥移送ポンプ	軸ネジ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
資源化	供給ホッパ	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
袋	バケットエレベー タ	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
詰め)	供給コンベヤ	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	1kg用自動計量袋詰 装置		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	20kg用自動計量袋 詰装置		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
源化	傾斜コンベヤ		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
(袋	整形コンベヤ		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
詰め)	ロボットパレタイ ザ		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	集塵機		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	コンプレッサ		2	H17	СВМ			4
高濃度	高濃度臭気吹込ブ ロワ	ルーツ	2	H17	СВМ	・ロータ軸の摩耗が指摘されている 【平成30年の点検より】		3
臭気	ガスフィルタ	FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	低 濃 度 臭 気 脱 臭ファン	ターボ	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	№.1 酸洗浄脱臭塔	FRP	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
	No. 1 酸循環ポンプ	横型 渦巻	1	H22	СВМ	・損傷等はみられない		4
低	アルカリ次亜塩脱 臭塔	FRP	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
濃度臭気	アルカリ循環ポン プ	横型渦巻	1	H22	СВМ	・吐出配管フランジボルトに腐食がみられる・配管サポートに腐食がみられる	要補修	2
凤	硫酸貯槽	FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	No. 1 酸注入ポンプ	ダイヤ フラム	1	H16	СВМ	・損傷等はみられない		4
	苛性ソーダ注入ポ ンプ	ダイヤ フラム	1	H26	СВМ	・損傷等はみられない		4
	No. 1 活性炭脱臭塔	SS	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4

表3.5.2(1) 設備・機器の健全度評価結果表(第1処理棟)

(その6)

	設備・装置名	形式	数量	設置 年度	保全 方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
	処理水槽臭気脱臭 ファン	ターボ	1	S60	СВМ	・損傷等はみられない		4
処	No. 2 酸洗浄脱臭塔	FRP	1	S60	СВМ		4	
理水	No. 2 酸循環ポンプ	横型 渦巻	1	H22	СВМ	・損傷等はみられない		4
+##	No. 2 酸注入ポンプ	ダイヤ フラム	1	H16	СВМ	・損傷等はみられない		4
気	No. 2 活性炭脱臭塔	SS	1	S60	СВМ	・ダクトフランジ部に軽微な腐食がみられる。	要観察	3
	エンジン排ガス吸 引ファン	ターボ	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	排水移送ポンプ	軸ネジ	2	H17	СВМ	・モータ、減速機の次回更新が指摘されている 【令和元年の点検より】		4
取	井戸取水ポンプNo. 1	[■] 取水ポンプNo. 水中 1 H24 CBM -						4
水	沢水取水ポンプ	横型 自吸	2	Н30	СВМ	・損傷等はみられない		4
	希釈水ポンプ	構刑				・損傷等はみられない		4
	シール水ポンプ	横型 渦巻	1	H24	СВМ	・損傷等はみられない		4
	自動扉用コンプ レッサ		1	H21	СВМ	・損傷等はみられない		4
の	計装用コンプレッ サ		2	H21	СВМ	・損傷等はみられない		4
他	希釈水配管		1式	S. 60	СВМ	・地下ポンプ室の希釈水配管全体に腐食がみられる。	要補修	2

健全度: 1 劣化進み、機能回復困難。 2 劣化が進むも、機能回復可能。 3 軽微な劣化あるも機能に支障なし。 4 支障なし

診断結果欄で機器本体の指摘ではない場合は健全度を4としている

表3.5.2(2) 設備・機器の健全度評価結果表(第2処理棟)

(その1)

	設備・装置名	形式	数量	設置 年度	保全 方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
	し尿沈砂槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	浄化槽汚泥沈砂槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
受入	し尿受入槽	RC	1	H17	СВМ	・ウジ返しが腐食している	要観察	3
貯	浄化槽汚泥受入槽	RC	1	H17	СВМ	・ウジ返しが腐食している	要観察	3
留	し尿貯留槽	RC	1	H17	СВМ	・配管サポートに腐食がみられる ・ウジ返しが腐食している	要観察	3
	浄化槽汚泥貯留槽	RC	1	H17	СВМ	・ウジ返しが腐食している	要観察	3
膜分	硝化脱窒素槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
離高	中継槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
負荷昭	膜分離水槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
脱窒素	返送汚泥ピット	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
処理	処理水槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	汚泥貯留槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
汚泥	ろ液槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
脱水	洗浄水槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	分離液貯留槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
取排	受水槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	排水槽	RC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
その	施設内廊下	RC		H17	СВМ	・床に亀裂がみられる (階段室BのF1とB1の間)	要観察	3
他	処理棟外壁	RC		H17	СВМ	・外壁に軽微な亀裂がみられる	要観察	3

(その2)

				⇒π, ppt.	<i>I</i>			() <u>(</u>)
	設備・装置名	形式	数量	設置 年度	保全 方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
	トラックスケール		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	し尿受入口	SUS	4	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	净化槽汚泥受入口	SUS	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	沈砂除去装置							
	真空ポンプ		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	• 洗浄装置	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	し尿破砕装置	竪型	3	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	浄化槽汚泥破砕装 置	竪型	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	夾雑物除去装置 (し尿用)							
	ドラムスクリーン	SUS	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	スクリュープレス	SUS	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	夾 雑 物 除 去 装 置 (浄化槽汚泥用)							
受	ドラムスクリーン	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
入・	スクリュープレス	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
貯留	夾雑物移送装置	スク リュー	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	高圧洗浄ポンプ	竪型	3	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	温水洗浄タンク	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	アルカリ洗浄タン ク	FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	アルカリ洗浄ポン プ	横竪 渦巻	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	苛性ソーダ移送ポ ンプ		2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	し尿貯留槽撹拌ポンプ	竪型	2	H17	СВМ	・モータ振動値異常が指摘されている 【令和元年の点検より】	要観察	3
	浄化槽汚泥貯留槽 撹拌ポンプ	竪型	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	し尿移送ポンプ	竪型	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	浄化槽汚泥移送ポン	竪型	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	し尿投入ポンプ	竪型	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	浄化槽汚泥投入ポン	竪型	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	エンジン排ガス捕集装置		4	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4

	設備・装置名	形式	数量	設置年度	保全方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
	サンプリングポン	横竪			カ式 CBM	・損傷等はみられない		
	プ 	渦巻	1	H17				4
	サンプリング槽 消泡スプレーポン	SS+GL 横竪	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	プ	渦巻	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	酸素溶解循環ポンプ	横竪 渦巻	4	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	消泡剤注入ポンプ	ダイヤ フラム	3	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	消泡剤貯槽	PVC	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	メタノールサービ スタンク	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	メタノール注入ポ ンプ	軸ネ ジ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	苛性ソーダ貯槽	FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
膜	苛性ソーダ注入ポ ンプ	ダイヤ フラム	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
分離	熱交換器	スハ゜イラル SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
高	冷却塔	クーリンク゛ タワー	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
負荷脱	冷却水ポンプ	横竪渦巻	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
窒	冷却水自動管理装 置	ユニット	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
素処理	中継ポンプ	横竪 渦巻	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	生物膜分離装置	浸漬 型	5	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	透過液吸引ポンプ	ー 軸ネ ジ	5	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	返送汚泥ポンプ	軸ネ ジ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	余剰汚泥引抜ポンプ	軸ネ ジ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	膜分離装置撹拌ブ ロワ	ルーツ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	シュウ酸注入ポンプ		2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	次亜塩素酸ナトリウム貯槽	PE	1	H23	СВМ	・損傷等はみられない		4
	次亜塩素酸ナトリ ウム注入ポンプ	ダイヤ フラム	1	H17	СВМ	・A、B号機のポンプヘッドに軽微な 腐食がみられる	要観察	4
	処理水移送ポンプ	軸ネ ジ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	汚泥貯留槽撹拌ブロワ	ルーツ	1	H17	СВМ	・ロータ軸の損傷が指摘されている 【令和元年の点検より】		4
汚泥脱	分離液貯留槽撹拌ブロワ	ルーツ	2	H17	СВМ	・A機のプーリ及びタイミングギアの 摩耗が指摘されている 【平成30年の点検より】		4
水	汚泥供給ポンプ	軸ネ ジ	4	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	硫酸バンド貯槽	FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4

	設備・装置名	形式	数量	設置 年度	保全方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
	硫酸バンド注入ポ ンプ	ダイヤ フラム	4	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	Ⅱ剤定量供給装置	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4	
	Ⅱ剤溶解槽	SS+ PEL	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	Ⅱ剤注入ポンプ	軸ネジ	4	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	I 剤反応槽	SS+ PEL	3	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	Ⅱ剤反応槽	SS+ PEL	3	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	脱水機	ベルトプレス	3	H17	СВМ	・A号機のローラー表面の腐食及びコーティングの剥離、洗浄トラフカバーの腐食等が指摘されている【令和元年の点検より】 ・C号機の第一ろ布用洗浄トラフカバーの腐食等が指摘されている【平成30年の点検より】		3
脱水	脱水汚泥移送装置 (1)	スクリュー SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	3	スクリュー SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	脱水汚泥移送装置(3)	スクリュー SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	オートストレーナ	SUS	3	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	ろ布洗浄水ポンプ	横型 渦巻	4	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	ろ液移送ポンプ	竪型 渦巻	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	分離液移送ポンプ (1)	軸ネ ジ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	分離液移送ポンプ (2)	軸ネ ジ	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	し渣ホッパ	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	汚泥ホッパ	SUS	1	H17	СВМ	・点検口に軽微な腐食がみられる	当面支障なし	3
	予備処理タンク	SUS	1	H17	СВМ	・汚泥ホッパに接続するフレキシブル 配管に損傷がみられる	要補修	2
	反応釜 (クッカー)	SS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
油温	ミストキャッチャー		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
減圧	油圧ユニット		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
乾燥	粗油分離装置	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
設備	油切下タンク	SUS	1	H17	СВМ	・保護キャップ取付部の主軸の摩耗が 指摘されている 【令和2年の点検より】		3
	油分離汚泥移送装置-1	スクリュー SUS	1	H17	СВМ	・モータ振動値異常が指摘されている 【令和元年の点検より】		3

			•	(-) B	7 7 7 7 7	600度主及計画和未及(第2定域)	(~	v/0)
	設備・装置名	形式	数量	設置 年度	保全 方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
	脱油プレス付きケ トル	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	油圧ユニット		1	H17	СВМ	ケーシングにオイルが付着している	要補修	3
	油戻しポンプ	軸ネ ジ	2	H17	СВМ	・B号機の配管カバーに油が付着して いる	要補修	3
	ドレン回収装置	1	1	H17	СВМ	・壁側のドレン配管に腐食がみられる	要補修	2
	油分離汚泥移送装置-2	SUSフラ イト	1	H17	СВМ	・各所の摩耗等が指摘されている【令和2年の点検より】		3
	冷却機	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	製品振分コンベヤ	SUSスク リュ	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	し渣用製品ホッパ	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	汚泥用製品ホッパ	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	製品コンベヤ	スクリュ	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
油	計量機	ロート゛セル	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
温減	油分離液移送ポンプ	軸ネ ジ	2	H17	СВМ	・A, B号機の配管カバーが損傷している	要補修	2
圧乾	油分離液タンク	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
燥設	油分離液供給ポンプ	軸ネ ジ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
備	蒸気配管		1式	H17	СВМ	・現場報告より油温減圧乾燥設備の蒸 気配管の各所で腐食が報告されている	要補修	2
	遠心分離機		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	油受けタンク	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	分離油移送ポンプ	軸ネ ジ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	油計量タンク	SUS	2	H17	要補修	2		
	加油ポンプ	軸ネ ジ	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	油分離残渣移送装置	SUSスク リュー	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	凝縮器	SUS	1	H17	・損傷等はみられない		4	
	熱交換器	SUS	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	ラインポンプ	渦巻	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	凝縮水ポンプ	横型 渦巻	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4

(その6)

	設備・装置名	形式	数量	設置 年度	保全 方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
	凝縮水タンク	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	凝縮水移送ポンプ	横型 渦巻	2	H17	СВМ	・B号機の吐出配管フランジから水漏 れがみられる	要補修	2
	真空ポンプ	渦巻	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	冷却水循環ポンプ	横型渦巻	2	H17	СВМ	・主軸と羽根車の腐食等が指摘されている 【平成30年の点検より】		3
	冷却装置		4	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	燃焼脱臭装置		1	H17	СВМ	・煙道、煙突が煤により少し細くなっていることが報告されている【令和元年の点検より】	要観察	3
	燃焼脱臭排気ファ ン	ターホ゛	1	H17	СВМ	・吐出側ダクトからガス漏れ跡がみら れる	要補修	3
油温減	燃焼脱臭装置ブロワ	ターホ゛	1	H17	СВМ	・ドレン配管から液漏れがみられる・ダクトに腐食がみられる	要補修	2
	燃焼バーナ		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
燥設	燃焼脱臭装置重油 サービスタンク	SS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
備	煙突		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	ボイラー		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	ホットウエルタンク	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	軟水器	FRP	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	受水槽	SUS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	送水ポンプ	渦巻	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	燃焼脱臭設備重油 ポンプ		2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	地下重油タンク	地下	1	H17	・損傷等はみられない		4	
	ボイラー用重油 サービスタンク	SS	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	重油ポンプ		2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4

表3.5.2(2) 設備・機器の健全度評価結果表(第2処理棟)

(その7)

設備・装置名	形式	数量	設置 年度	保全 方式	損傷等の状況	診断結果	健全度
高濃度臭気ファン	ターホ゛	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
生物脱臭塔	FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
硫酸貯槽	FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
硫酸注入ポンプ	ダイヤ フラム	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
酸洗浄塔	FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
アルカリ洗浄塔	FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
酸循環ポンプ	竪型 渦巻	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
アルカリ循環ポンプ	竪型 渦巻	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
ミストセパレータ	FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
中濃度臭気脱臭 ファン	ターホ゛	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
中濃度臭気活性炭 脱臭塔	SS+FRP	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
低濃度臭気脱臭 ファン	ターホ゛	1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
低濃度臭気活性炭 脱臭塔	SS+FRP	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
臭突		1	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
プロセス用水ポンプ	ユニット	2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
床排水ポンプ		7	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
搬入車計量装置排水ポンプ		2	H17	СВМ	・損傷等はみられない		4
	高濃度臭気ファン 生物脱臭塔 硫酸貯槽 硫酸注入ポンプ 酸洗浄塔 アルカリ循環ポンプ アルスト度ン度度 リカトを臭気気にといる 東ア濃塔 臭気気にといる 臭気気にといる 臭突 マロセスポンプ 床排水プ	高濃度臭気ファン ターボ 生物脱臭塔 FRP 硫酸貯槽 FRP 硫酸注入ポンプ ダイラム 酸洗浄塔 FRP 酸洗浄塔 FRP 酸循環ポンプ 整温整 アルカリ循環ポンプ 器型巻 アルカリ循環ポンプ FRP 中濃度臭気活性炭 SS+FRP 脱臭塔 低濃度臭気活性炭 SS+FRP 長突 プロセス用水ポンプ エット 床排水ポンプ チーボ 東京 東京 東京 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田	高濃度臭気ファン ターボ 1 生物脱臭塔 FRP 1 硫酸貯槽 FRP 1 硫酸注入ポンプ ダイヤフラム 2 酸洗浄塔 FRP 1 アルカリ洗浄塔 FRP 1 酸循環ポンプ 竪型 2 アルカリ循環ポンプ B型巻 2 ミストセパレータ FRP 1 中濃度臭気脱臭 ターボ 1 中濃度臭気活性炭 SS+FRP 1 低濃皮シン ターボ 1 低濃皮臭気活性炭 SS+FRP 2 臭突 1 プロセス用水ポンプ ユニット 2 床排水ポンプ ストット 7	高濃度臭気ファン ターボ 1 H17 生物脱臭塔 FRP 1 H17 硫酸貯槽 FRP 1 H17 硫酸注入ポンプ グラム 2 H17 酸洗浄塔 FRP 1 H17 アルカリ洗浄塔 FRP 1 H17 を循環ポンプ 整型 2 H17 アルカリ循環ポンプ 整型 2 H17 テストセパレータ FRP 1 H17 ミストセパレータ FRP 1 H17 中濃度臭気脱臭 ターボ 1 H17 性濃度臭気脱臭 ターボ 1 H17 低濃度臭気脱臭 ターボ 1 H17 低濃度臭気脱臭 ターボ 1 H17 低濃度臭気脱臭 ターボ 1 H17 に濃度臭気に性炭 SS+FRP 1 H17 展決 SS+FRP 1 H17 に濃度臭気に対験 SS+FRP 2 H17 集突 1 H17 床非水ポンプ ユニット 2 H17 床排水ポンプ ユニット 2 H17	高濃度臭気ファン ターボ 1 H17 CBM 生物脱臭塔 FRP 1 H17 CBM 硫酸貯槽 FRP 1 H17 CBM 酸洗浄塔 FRP 1 H17 CBM 酸洗浄塔 FRP 1 H17 CBM アルカリ洗浄塔 FRP 1 H17 CBM 酸循環ポンプ 整型 2 H17 CBM アルカリ循環ポンプ 器型 2 H17 CBM テストセパレータ FRP 1 H17 CBM キ濃度臭気脱臭 ターボ 1 H17 CBM 中濃度臭気形臭 ターボ 1 H17 CBM 中濃度臭気形臭 ターボ 1 H17 CBM 佐濃度臭気形臭 ターボ 1 H17 CBM 低濃度臭気形臭 ターボ 1 H17 CBM 低濃度臭気形臭 ターボ 1 H17 CBM 低濃度臭気形臭 ターボ 1 H17 CBM ボ濃度臭気形臭 ターボ 1 H17 CBM に濃度臭気形臭 ターボ 1 H17 CBM に濃度臭気形と SS+FRP 2 H17 CBM に濃度臭気活性炭 SS+FRP 2 H17 CBM に濃度臭気活性炭 スニット 2 H17 CBM に濃度臭気 3 H17 CBM	高濃度臭気ファン ターボ 1 H17 CBM ・損傷等はみられない 生物脱臭塔 FRP 1 H17 CBM ・損傷等はみられない 硫酸貯槽 FRP 1 H17 CBM ・損傷等はみられない 硫酸注入ポンプ ダイヤ 2 H17 CBM ・損傷等はみられない 酸洗浄塔 FRP 1 H17 CBM ・損傷等はみられない アルカリ洗浄塔 FRP 1 H17 CBM ・損傷等はみられない 変型 2 H17 CBM ・損傷等はみられない 変型 2 H17 CBM ・損傷等はみられない アルカリ循環ポンプ 高巻 2 H17 CBM ・損傷等はみられない アルカリ循環ポンプ B型 2 H17 CBM ・損傷等はみられない アルカリ循環ポンプ B型 1 H17 CBM ・損傷等はみられない ウ濃度臭気脱臭 ターボ 1 H17 CBM ・損傷等はみられない 中濃度臭気活性炭 SS+FRP 1 H17 CBM ・損傷等はみられない に微度臭気活性炭 SS+FRP 1 H17 CBM ・損傷等はみられない (低濃度臭気活性炭 SS+FRP 1 H17 CBM ・損傷等はみられない (低濃度臭気活性炭 SS+FRP 2 H17 CBM ・損傷等はみられない り 投傷等臭気活性炭 SS+FRP 2 H17 CBM ・損傷等はみられない 臭突 1 H17 CBM ・損傷等はみられない 臭突 1 H17 CBM ・損傷等はみられない 泉等 1 H17 CBM ・損傷等はみられない 泉等 1 H17 CBM ・損傷等はみられない	A

健全度: 1 劣化進み、機能回復困難。2 劣化が進むも、機能回復可能。3 軽微な劣化あるも機能に支障なし。4 支障かし

支障なし 診断結果欄で機器本体の指摘ではない場合は健全度を4としている

2 劣化の予測

設備・機器の劣化や故障の程度は、仕様材質、保全方法、運転状況等により施設毎に 大きく異なることから、過去の補修・整備履歴や故障の頻度に加え、定期診断時、機器 メーカによる点検整備時等の目視確認により耐用を予測するものとする。

また、将来的には、保全計画で示す点検周期に沿って実施され記録された整備履歴データを蓄積し、今後の劣化予測に活用する。

第6節 整備スケジュール

補修・整備履歴、健全度評価結果等を参考に今後の整備スケジュールを作成する。主要設備・機器の劣化状況及び今後の整備計画は、表3.6.1に示すとおりである。

表3.6.1(1) 主要設備・機器の劣化状況及び今後の整備計画(第1処理棟: R C 設備)

【第	1 処理棟】設備			*		健	今後の整備計画 凡 例: ◎: 更新 □:整備 ☆: 清掃														
			設置 年度	前回 整備	整備内容	健全度													24	215	210
	RC設備	形式					R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	沈砂ピット(し尿)	RC	S59	_	槽内防食	3															
受	沈砂ビット(浄化槽汚泥)	RC	S59	_	槽内防食	3															
受入・貯	し尿受入槽	RC	S59	H30	槽内防食	3	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
貯留	浄化槽汚泥受入槽	RC	S59	H25	槽内防食	3	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	し尿貯留槽	RC	S59	H28	槽内防食	3	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	浄化槽汚泥貯留槽	RC	S59	H27	槽内防食	3	*	☆	#	#	#	#	☆	#	#	#	☆	#	#	☆	ů.
	第一攪拌槽	RC	S59	_	槽内防食	3															
二段	第一曝気槽	RC	S59	-	槽内防食	4															
段活性汚	第二撹拌槽	RC	S59	_	槽内防食	3															
汚泥	第二曝気槽	RC	S59	-	槽内防食	4															
	沈殿槽	RC	S59	-	槽内防食	3															
	沈殿槽スカム槽	RC	S59	-	槽内防食	4															
	混和槽	RC	S59	-	槽内防食	3															
凝	凝集槽	RC	S59	_	槽内防食	3															
集 +	加圧浮上槽	RC	S59	_	槽内防食	4															
オゾン	加圧浮上槽スカム槽	RC	S59	-	槽内防食	3															
	オゾン処理原水槽	RC	S59	-	槽内防食	3															
	オゾン反応槽	RC	S59	-	槽内防食	4															
	ろ過原水槽	RC	S59	_	槽内防食	3															
	活性炭原水槽	RC	S59	_	槽内防食	3															
ろ	処理水槽	RC	S59	_	槽内防食	3															
過 + 放	活性炭受槽	RC	S59	-	槽内防食	休止															
流	逆洗排水槽	RC	S59	_	槽内防食	3	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	な
	接触槽	RC	S59	_	槽内防食	3															
	放流ピット	RC	S59	-	槽内防食	2															
汚	汚泥濃縮槽	RC	S59	-	槽内防食	3															
泥処	汚泥貯留槽	RC	S59	_	槽内防食	3															
理	排水槽	RC	S59	-	槽内防食	3															
	管理棟排水槽	RC	S59	-	槽内防食	3															
取排	沢水取水用沈砂槽A	_	S59	-	槽内防食	4															
水	沢水取水用沈砂槽B	_	S59	-	槽内防食	4															
	受水槽	_	S59	-	槽内防食	3															
	処理棟建屋外壁	RC	S59	Ī	塗装	4															
	処理棟 吹付アスベスト	_	S59	_	吹付除去	2	□フロ ア北側	□フロ ア南側	□旧活 性炭再 生棟室	□2階電 気室											
その他	処理棟屋根	-	S59	-	屋根防水	2					□全面										
-	管理棟屋根	-	S59	-	屋根防水	2		□全面													
	薬品ヤード	-	S59	R元	堤内塗装	4															
Inda.		4 7	146 A	51 <u>-1</u> 45	· □ ## 0	/L/	リレスミン化	+.1	+4% At 1=1	/ 一一/ 1	0 #2	アベル・チェノン	いルセス	4 tilk 4b) > 十: 四字	<i>4</i> \ 1	4 + 73	5 d v 1			

健全度:1 劣化進み、機能回復困難。2 劣化が進むも、機能回復可能。3 軽微な劣化あるも機能に支障なし。4 支障なし

表3.6.1(1) 主要設備・機器の劣化状況及び今後の整備計画(第1処理棟:機械設備)

(その1)

[9	第1処理棟】設備					.,	健			今 後	の 整	備計	画	凡例	: ◎:9	 更新	□:整備	♦	京検	☆清掃	`	
	機器名称	設置 年度	経過 年数	更新 問隔	整備問隔	前回 整備	全度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	搬入車室自動ドア	S59	35	_	1年	R元	3		<		→	⋄		<		∴		∴	∴		∴	\ \
	コンプレッサー (自動扉用)	R元	_	10年	_	_	4										0					
	エアドライヤー (自動扉用)	H27	4	7年	-	_	4			0							0					
	受入口	S59	35	-	-	_	4															
	真空タンク	S59	35	_	-	_	4															
	真空ポンプ	H17	14	14年<	4年	R元	4		0													
	し尿破砕装置 (し尿浄化共用)	H18	13	13年<	3年	R元	4		◎メカ 仕様													
受	し尿破砕装置	H18	13	13年<	3年	R元	4		◎メカ 仕様													
受入・貯	浄化槽汚泥破砕装置	H18	13	13年<	3年	R元	4		◎メカ 仕様													
留	し尿投入ポンプA	H17	14	-	3年	R元	4															
	し尿投入ポンプS	H17	14	_	3年	R元	4															
	浄化槽汚泥投入ポンプ	H17	14	_	3年	R元	4															
	し尿スカム破砕ポンプ	H29	2	10年<	3年	H25	4													0		
	浄化槽汚泥スカム 破砕ポンプ	H30	1	11年<	3年	H26	3														0	
	補給水槽	S59	35	_	-	ı	4															
	管理棟排水移送ポンプA	H29	2	5年	-	-	l			0					0					0		
	管理棟排水移送ポンプB	Н5	26	_	-	_	ı															
	希釈調整槽	H29	2	10年	-	-	4								0							
	希釈調整槽減速機	H25	6	10年	-	_	4				0										0	
	ガス撹拌ブロワA	H22	9	-	2年	R元	4										0					
	ガス撹拌プロワB	H22	9	-	2年	H30	4									0						
	ガスフィルター (撹拌用)	H17	14	_	-	_	4															
	ガスフィルター (撹拌用) 充填材	H17	14	_	-	-	4												0			
	ガスシールタンク	S59	35	_	-	-	3															
_	撹拌槽散気管	H16	15	-	-	-	-															
活	曝気ブロワA	H17	14	-	2年	R元	4															
性汚泥	曝気ブロワB	H17	14	-	2年	R元	4															
	曝気ブロワ℃	H17	14	-	2年	R元	4															
	曝気ブロワAインバータ	H16	15	-	-	-	-															
	曝気ブロワBインバータ	H16	15	-	-	-	-															
	曝気プロワCインバータ	H16	15	-	-	-	-															
	曝気槽散気管	H16	15	-	-	-	-															
	苛性ソーダ注入ポンプ (曝気槽用)	H16	15	_	-	-	4															
	循環ポンプ A	H24	7	6年<	3年	H28	4	0									0					
L	循環ポンプB	H24	7	6年<	3年	H28	4	0									0					

表3.6.1(1) 主要設備・機器の劣化状況及び今後の整備計画(第1処理棟:機械設備)

(その2)

													_									
【第	第1処理棟】設備	設置年度	経過年数	更新問隔	整備問隔	前回整備	健全		I	今 後	の整	備計	画	凡例	: 0:5	更新	□:整備	\\ \A	i.検	☆清掃	I	
	機器名称			1.0110	1.0112	22.993	度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	沈殿槽減速機	H25	6	10年	-	-	4				0										0	
	沈殿槽スカム移送ポンプ	H22	9	5年	-	H27	4	0					0					0				
	沈殿槽内部機械装置	H26	5	-	-	_	-										0					
	返送汚泥ポンプA	H29	2	9年	3年	H24	3							0								
	返送汚泥ポンプB	H29	2	9年	3年	H24	3							0								
	余剰汚泥引抜ポンプ	H17	14	-	2年	R元	4															
	メタノール貯槽	S59	35	_	-	R元	4	△ 法定	△ 法定	△ 法定	△ 法定	△ 法定	△ 法定	△ 法定	△ 法定	△ 法定	△ 法定	△ 法定	△法定	△ 法定	△ 法定	△ 法定
	メタノール注入ポンプA	H15	16	_	-	_	4						0									
二段活	メタノール注入ポンプB	H15	16	-	-	-	4						0									
性汚泥	メタノール移送ポンプA	H17	14	-	5年	H27	4															
	メタノール移送ポンプB	H15	16	_	5年	H26	4															
	消泡剤貯槽	H17	14	-	-	1	4															
	消泡剤注入ポンプA	Н8	23	-	-	-	4															
	消泡剤注入ポンプB	Н8	23	-	-	-	4															
	消泡剤注入ポンプC	Н8	23	-	-	-	4															
	消泡剤注入ポンプD	Н8	23	-	-	-	4															
	消泡剤注入ポンプE	Н8	23	-	-	-	4															
	消泡剤注入ポンプF	Н8	23	-	-	-	4															
	気液分離槽	R元	-	10年	-	H24	4										0					
	加圧水ポンプA	H29	2	4年	-	H21	3		0				0				0				0	
	加圧水ポンプB	Н30	1	4年	-	H20	3			0				0				0				0
	加圧用コンプレッサーA	R元	-	10年	-	-	4										0					
	加圧用コンプレッサーB	R元	-	10年	_	-	4										0					
	加圧浮上槽減速機	H25	6	10年	_	-	4				0										0	
	加圧浮上槽内機械装置	S59	35	-	-	H24	4							0								
凝	加圧浮上スカム 移送ポンプA	R元	-	5年	-	H26	4					0					0					0
集 + オゾ	加圧浮上スカム 移送ポンプB	H29	2	5年	_	H24	4			0					0					0		
ン	硫酸バンド貯槽	H21	10	17年	-	-	4							0								
	硫酸バンド注入ポンプ (凝集用) A	H27	4	10年	-	-	4						0									
	硫酸バンド注入ポンプ (凝集用) B	H27	4	10年	-	_	4						0									
	高分子凝集剤溶解槽A	S59	35	8年<	-	_	3								0							
	高分子凝集剤溶解槽B	S59	35	8年<	-	-	3								0							
	高分子凝集剤溶解槽 撹拌機A	H24	7	8年<	-	_	4								0							
	高分子凝集剤溶解槽 撹拌機B	H24	7	8年<	-	_	4								0							
	高分子凝集剤注入ポンプA	H27	4	10年	-	_	4						0									

表3.6.1(1) 主要設備・機器の劣化状況及び今後の整備計画(第1処理棟:機械設備)

(その3)

U	第1処理棟】設備		A		aget 277	21.	健			今 後	の整	備計	画	凡例	: ©: 9	更新	□:整備	<i>◇k</i>	5検	☆清掃	`	
	機器名称	設置 年度	経過 年数	更新 問隔	整備問隔	前回 整備	全度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	高分子凝集剤注入ポンプB	H27	4	10年	_	_	4						©									
	凝集槽撹拌機	H24	7	10年	_	_	4			0										0		
	苛性ソーダ貯槽	H21	10	9年<	_	_	4								0							
	苛性ソーダ注入ポンプ(凝集用)A	H26	5	10年	-	-	4					0										0
	苛性ソーダ注入ポンプ(凝集用)B	H26	5	10年	-	_	4					0										0
	混和槽撹拌機	H24	7	5年	-	-	4			0					0					0		
	オゾナイザー	H15	16	-	1年	R元	4															
	コンプレッサA	H15	16	-	1年	R元	4															
	コンプレッサB	H15	16	-	1年	R元	4															
	オゾン反応槽散気装置	S59	35	2年	-	H30	-	交換	⊚ 購入	交換	⊚ 購入	交換	⊚ 購入	交換	⊚ 購入	交換	⊚ 購入	交換	⊚ 購入	交換	⊚ 購入	交換
凝集+	オゾン反応槽犠牲電極	H29	2	5年	-	-	_			0					0					0		
オゾン	オゾン処理原水ポンプA	H17	14	5年	-	H28	4		0					0					0			
	オゾン処理原水ポンプB	H27	4	5年	-	H20	4	0					0					0				
	消泡槽	S59	35	1	_	_	4															
	泡沫水ポンプA	R元	-	10年	-	H20	4										0					
	泡沫水ポンプB	R元	-	10年	-	H20	4										0					
	一次水洗塔	H28	3	9燃<	_	-	2							0								
	一次水洗塔充填材	S59	35	-	-	-	4						0									
	二次水洗塔	H15	16	-	-	-	4															
	排オゾン分解塔	H15	16	-	1年	R元	4															
	排オゾン分解塔活性炭	H15	16	-	-	-	_	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替
L	排オゾンモニタ	H15	16	-	1年	R元	_															
	ろ過器A	S59	35	-	-	H23	4		◎配管													
	ろ過器B	S59	35	-	-	H23	4		◎配管													
	ろ過器Aろ材	H17	14	-	-	-	_						0									
	ろ過器Bろ材	H17	14	-	-	-	_						0									
	ろ過原水ポンプA	H30	1	5年	-	H26	2				0					0					0	
3	ろ過原水ポンプB	H30	1	5年	-	H26	2				0					0					0	
過十放	ろ過原水ポンプC	H30	1	5年	-	H26	2				0					0					0	
流	活性炭原水ポンプA	R元	-	5年	-	H26	2					0					0					0
	活性炭原水ポンプB	H24	7	5年	-	H29	2			0					0					0		
	活性炭移送ポンプ	S59	35	-	-	-	4															
	活性炭吸着塔A活性炭	S59	35	J	-	-	-	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替
	活性炭吸着塔B活性炭	S59	35	-	-	-	_	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替
L	活性炭吸着塔A	S59	35	-	-	H23	4	◎配管														

表3.6.1(1) 主要設備・機器の劣化状況及び今後の整備計画(第1処理棟:機械設備)

(その4)

[]	第1処理棟】設備	設置	経過	更新	整備	前回	健			今 後	の整	備計	画	凡例	: ◎: 更	更新	□:整備	♦	5検	☆清掃		
	機器名称	年度	年数	間隔	間隔	整備	全度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	活性炭吸着塔B	S59	35	_	_	H23	4	◎配管														
	活性炭原水槽散気装置	S59	35	_	_	_	_															
	逆洗ポンプ	H26	5	6年	_	H21	2	0						0						0		
	逆洗排水移送ポンプA	H17	14	_	3年	H30	4															
	逆洗排水移送ポンプB	H17	14	_	3年	H30	4															
	逆洗排水槽散気装置	S59	35	-	-	H27	-															
	次亜塩素酸ナトリウム貯槽	H21	10	9年<	15年<	-	4						0									
ろ過+		R元	-	6年<	1	-	4										0					
放	次亜塩素酸ナトリウム 注入ポンプ (消毒用) B	R元	-	6年<	1	-	4										0					
	サンプリングポンプ	H29	2	2年<	-	-	2		0		0		0		0		0		0		0	
	放流ポンプ A	H27	4	4年	ı	H24	2				0				0				0			
	放流ポンプB	H28	3	4年	1	H24	4	0				0				0				0		
	計装用コンプレッサーA	H21	10	-	ı	-	-															
	計装用コンプレッサーB	H21	10	_	ı	-	ı															
	エアードライヤー (計装用)	R元	-	7年	1	1	ı							0							0	
	ろ過器操作盤 (ろ過器+活性炭)	S59	35	-	ı	R元	l	◎ 制御盤														
	汚泥濃縮槽減速機	H16	15	_	ı	1	4	⊚ ₹-9-														
	汚泥濃縮槽槽内機械装置	H17	14	-	-	-	-									0						
	汚泥貯留槽散気装置	S59	35	_	-	-	-															
	濃縮汚泥引抜ポンプA	H17	14	-	4年	R元	4															
泥	濃縮汚泥引抜ポンプB	H17	14	-	4年	R元	4															
処理	汚泥移送ポンプA	H17	14	-	4年	H28	4															
	汚泥移送ポンプB	H15	16	-	4年	H28	4															
	排水移送ポンプA	H17	14	-	4年	R元	4															
	排水移送ポンプB	H17	14	-	4年	R元	4															
	排水槽散気装置	S59	35	-	-	-	-															
	供給ホッパ	H16	15	-	-	H30	4															
	供給用バケット エレベーター	H16	15	-	-	H30	4															
	供給用スクリュー コンベア	H16	15	-	6年<	H29	4															
資)	1kg用シール機	H16	15	_	-	_	4															
資源化袋	1kg用半自動計量 包装装置	H16	15	_	ı	-	4															
詰	1kg用, 20kg用 自動計量装置	H16	15	_	1年	R元	4															
	傾斜コンベア	H16	15	_	6年	R元	4															
	整形コンベア	H16	15	_	6年	R元	4															
	フィードコンベア	H16	15	_	-	H29	4															

表3.6.1(1) 主要設備・機器の劣化状況及び今後の整備計画(第1処理棟:機械設備)

(その5)

[3	第1処理棟】設備						fz4-			今 後	きの整	備計	画	凡例	: ⊚: J	更新	□:整備	<i>◇k</i>	.	☆清掃		
		設置 年度	経過 年数	更新 問隔	整備問隔	前回 整備	健全度	no	po.											Ι	DIE	DIC
	機器名称	H16	15	_	1年	29	4	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
資	集塵機	H16	15	_	1年	H30	4															
原化袋詰	コンプレッサA	H15	16	_	1年	H29	4															
語	コンプレッサB	H15	16	_	1年	H29	4															
	バキューム車	H17	14	7年	_		4			0							. 0					
	排臭補集装置 高濃度臭気吹込ブロワA	H17	14	_	2年	H30	3			ホースノス゜ル							ホースノス゜ル					
	高濃度臭気吹込ブロワB	H17	14	_	2年	R元	3															
	高濃度臭気吹込	H17	14	_	_	_																
	ブロワAインバータ 高濃度臭気吹込	H17	14	_	_	_	_															
	ブロワBインバータ ガスフィルター	H17	14		_	_	4															
	(高濃度臭気用) 高濃度臭気用ガス	H17	14		_		_															
	フィルター充填材 低濃度臭気排気ファン	H27	4	8年<	3年	H24	4															
				- 04/	34-	п24																
	No. 1酸洗脱臭塔 No. 1酸洗脱臭塔	S59	35	_	_	_	4															
	充填材	S59	35		_	_	_									0						
	No. 1 酸循環ポンプ	H23	8	10年	_	_	4		0										0			
	アルカリ脱臭塔	S59	35	_	_	_	4															
	アルカリ脱臭塔充填材	S59	35	_	-	_	_										0					
	アルカリ循環ポンプ	H23	8	10年	-	-	2		0										0			
	次亜塩素酸ナトリウム 注入ポンプ(脱臭用)A	H28	3	8年	-	-	4					0								0		
兑皂	次亜塩素酸ナトリウム 注入ポンプ (脱臭用) B	H28	3	8年	-	-	4					0								0		
	硫酸貯槽	H15	14	15年	-	H30	4		0													
	硫酸注入ポンプ (低濃度臭気用)	H15	16	-	-	-	4	購入品											0			
	苛性ソーダ注入 ポンプ (脱臭用)	H26	5	10年	-	-	4					0										0
	No. 1活性炭脱臭塔	S59	35	-	-	-	4															
	NO. 1活性炭脱臭塔活性炭	S59	35	-	-	-	-	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替
	No. 1ミストセパレーター	H21	10	-	-	-	4															
	処理水臭気排気ファン	H28	3	9年〈	3年	H24	4															
	No. 2酸洗脱臭塔	S59	35	-	-	_	4															
	NO. 2酸洗脱臭塔充填材	S59	35	1	-	1	-											0				
	No. 2 酸循環ポンプ	H15	8	10年	-	1	4		0										0			
	硫酸注入ポンプ (処理水槽臭気用)	H15	16	-	-	-	4	○購入品											0			
	No. 2活性炭脱臭塔	S59	35	-	-	_	3															
	NO. 2活性炭脱臭 塔活性炭	S59	35	_	-	_	-	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替
	No. 2ミストセパレーター	H21	10	-	-	-	4															
	排ガス吸引ファン	H17	14	-	-	-	4															

表3.6.1(1) 主要設備・機器の劣化状況及び今後の整備計画(第1処理棟:機械設備)

(その6)

Ţ.	第1処理棟】設備	設置	経過年数	更新問隔	整備問隔	前回整備	健全度			今 後	の整	備計	画	凡例	: ◎:勇	更新	□:整備	<i>◇k</i>	三検	☆清掃		
	機器名称	年度	年数	間隔	脛	整備	度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
脱臭	煙突	S59	35	-	-	-	-															
臭	臭突	S59	35	-	-	-	-															
	沢水用取水ポンプA	H30	1	10年	1	-	4									0						
	沢水用取水ポンプB	H30	1	10年	-	-	4									0						
給	水中深井戸ポンプ	H24	7	-	-	-	-								0							
水	シール水ポンプ シ゚ュニアウォーターエース	H24	7	10年	-	-	4			0										0		
	希釈水ポンプA	R元	-	5年	-	H26	4					0					0					0
	希釈水ポンプB	R元	-	5年	-	H26	4					0					0					0
	クリタックシステム	H28	3	9年<	12年<	R元	-	◇◎ 一部	◇◎ 一部	◇◎ 一部	◇◎ 一部	◇◎ 一部	\langle	♦	\langle	♦	♦	♦	♦	♦	♦	\langle
そ の 他		-	-	-	-	-	-	\langle	<	♦	0	\langle	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦
	電気設備その2	-	_	-	ı	-	_	\qquad	\qquad	♦	0	\langle	\qquad	\langle	\qquad	\qquad	♦	♦	♦	♦	♦	\qquad

健全度: 1 劣化進み、機能回復困難。 2 劣化が進むも、機能回復可能。 3 軽微な劣化あるも機能に支障なし。 4 支障なし

表3.6.1(2) 主要設備・機器の劣化状況及び今後の整備計画(第2処理棟:RC設備)

【第	2処理棟】設備		設置年度	前回	整備内容	健全				今	その整備	計画	凡何	i]:	更新 [□:整備	☆:清	掃			
	RC設備	形式	年度	前回 整備	全哺内谷	主度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	し尿沈砂槽	RC	H17	_	槽内防食	4															
	浄化槽汚泥沈砂槽	SUS- 304	H17	-	槽内防食	4															
受入・	し尿受入槽	RC	H17	1	槽内防食	3	☆	☆	☆	☆	☆	攻	□防食	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
貯留	浄化槽汚泥受入槽	SUS- 304	H17	-	槽内防食	3	な	☆	☆	☆	☆	☆	☆	□防食	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	し尿貯留槽(2)	RC	H17	-	槽内防食	3	☆	☆	ជំ	☆	☆	☆	☆	ដ	□防食	☆	☆	☆	ជំ	☆	☆
	浄化槽汚泥貯留槽	RC	H17	-	槽内防食	3	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	□防食	☆	☆	☆	☆	☆
一次処	硝化脱窒素槽	RC	H17	1	槽内防食	4															
処理	中継槽	RC	H17	1	槽内防食	4															
生物	膜分離水槽	RC	H17	1	槽内防食	4		☆			☆					☆					☆
膜分離	返送汚泥ピット	RC	H17	1	槽内防食	4															
処理	処理水槽	RC	H17	_	槽内防食	4															
	汚泥貯留槽(2)	RC	H17	1	槽内防食	4															
汚泥処	ろ液槽	RC	H17	1	槽内防食	4															
処理	洗浄水槽	RC	H17	-	槽内防食	4															
	分離液貯留槽	RC	H17	_	槽内防食	4															
取排	受水槽	RC	H17	-	槽内防食	4															
水	排水槽	RC	H17	_	槽内防食	4															
その	処理棟建屋外壁	RC	H17	-	塗装	3															
他	処理棟屋根	RC	H17	_	屋根防水	2						□全面									

健全度:1 劣化進み、機能回復困難。2 劣化が進むも、機能回復可能。3 軽微な劣化あるも機能に支障なし。4 支障なし

(その1)

【 角	第2処理棟】設備	設置	経過	更新	整備	前回	健			今 後	きの整	備計	画	凡例	: ◎:勇	更新	□:整備	♦	点検	☆清掃		
	機器名称	年度	年数	問隔	間隔	整備	全度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	トラックスケール	R元	0	-	-	R元	4	\qquad	♦	♦	□◇	♦	◇法定	♦	◇法定	\qquad	◇法定		◇法定	♦	◇法定	\langle
	搬入車室自動ドア	H16	15	-	_	R元	3	\langle	\$	\qquad	♦	\qquad	\langle	\$	♦	\qquad	\qquad		♦	\langle	♦	♦
	し尿受入口A	H16	15	-	-	_	4						□防食									
	し尿受入口B	H16	15	-	_	_	4						□防食									
	し尿受入口C	H16	15	-	_	_	4						□防食									
	し尿受入口D	H16	15	-	-	_	4						□防食									
	浄化槽汚泥受入口	H16	15	-	-	Н30	4						□防食									
	浄化槽汚泥受入口	H16	15	-	_	Н30	4						□防食									
	真空ポンプ	H16	15	13年<	5年	H30	4			0												
	真空タンク	H16	15	-	-	-	4															
	補給水槽	H16	15	-	-	-	4															
	し尿破砕装置A	H28	3	-	1年	R元	4															
	し尿破砕装置B	H29	2	-	1年	R元	4															
	し尿破砕装置C	Н30	1	ı	1年	R元	4															
	浄化槽汚泥破砕装置 A	R元	0	-	1年	R元	4															
	浄化槽汚泥破砕装置 B	H27	4	_	1年	R元	4															
受	し尿ドラムスクリーンA	H15	16	_	3年	R元	4															
入・貯	し尿ドラムスクリーンB	H15	16	_	3年	H29	4															
留設備	し尿スクリュープレスA	H15	16	-	3年	R元	4															
Una	し尿スクリュープレスB	H15	16	_	3年	H28	4															
	し尿スクリュープレス 油圧ユニットA	H15	16	-	3年	R元	4															
	し尿スクリュープレス 油圧ユニットB	H15	16	-	3年	H29	4															
	し尿計量タンク A	H15	16	-	3年	R元	4															
	し尿計量タンクB	H15	16	-	3年	H29	4															
	し尿洗浄空気ファンA	H15	16	-	3年	R元	4															
	し尿洗浄空気ファンB	H15	16	-	3年	H29	4															
	浄化槽汚泥 ドラムスクリーン	H15	16	-	3年	Н30	4															
	浄化槽汚泥 スクリュープレス	H15	16	-	3年	H30	4															
	浄化槽汚泥スクリュー プレス 油圧ユニット	H15	16	-	3年	Н30	4											0				
	浄化槽汚泥計量タンク	H15	16	-	3年	Н30	4											0				
	浄化槽汚泥 洗浄空気ファン	H15	16	-	3年	H30	4											0				
	夾雑物移送装置	H16	15	-	5年	H24	4											0				
	高圧洗浄ポンプA	H30	1	-	-	H30	4														0	
	高圧洗浄ポンプB	Н30	1	-	-	Н30	4														0	
	高圧洗浄ポンプC	H30	1	-	-	H30	4														0	
	温水洗浄装置 温水洗浄タンク	H15	16	-	1年	R元	4															

(その2)

[3	第2処理棟】設備	設置	経過	更新	整備	前回	健			今 後	の整	備計	画	凡例	: 0:3	更新	□ : 整備	♦	(検	☆清掃		
	機器名称	年度	年数	門隔	間隔	整備	全度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	温水洗浄装置ヒーター	H15	16	-	-	-	4															
	アルカリ洗浄ポンプ	H15	16	-	_	_	4															
	アルカリ洗浄タンク	H15	16	-	_	_	4															
	アルカリ撹拌機	H15	16	-	-	_	4															
	苛性ソーダ注入ポンプ (アルカリ洗浄用) A	H15	16	10年	_	H26	4					0										0
	苛性ソーダ注入ポンプ (アルカリ洗浄用) B	H15	16	10年	_	H26	4					0										0
	し尿貯留槽(2) 撹拌ポンプ A	H17	14	14年<	2年	R元	3		0													
受入	し尿貯留槽(2) 撹拌ポンプ B	H17	14	14年<	2年	R元	3		0													
貯留	浄化槽汚泥貯留槽 (2) 撹拌ポンプ A	H17	14	12年<	3年	H29	4				0											
設備	浄化槽汚泥貯留槽 (2) 撹拌ポンプB	H17	14	12年<	3年	H29	4				0											
	し尿移送ポンプ	H17	14	8年<	3年	H29	4								0							
	浄化槽汚泥移送ポンプ	H17	14	10年<	3年	R元	4						0									
	し尿投入ポンプ(2) A	H17	14	10年<	3年	2017	4						0									
	し尿投入ポンプ(2)B	H17	14	10年<	3年	H29	4						0									
	浄化槽汚泥投入ポンプ (2) A	H17	14	7年<	4年	H28	4									0						
	浄化槽汚泥 投入ポンプ(2) B	H17	14	7年<	4年	H28	4									0						
	排水移送ポンプ	R元	0	_	-	R元	_	⊚ 購入														
	サンプリングポンプ	H17	14	-	2年	H30	4															
	サンプリング槽	H16	15	-	-	_	4															
	消泡スプレーポンプA	H17	14	-	2年	H30	4															
	消泡スプレーポンプB	H17	14	-	2年	H30	4															
	酸素溶解循環ポンプA	H17	14	-	2年	R元	4															
	酸素溶解循環ポンプB	H17	14	-	2年	R元	4															
	酸素溶解循環ポンプC	H17	14	-	2年	H27	4															
	酸素溶解循環ポンプD	H17	14	-	2年	H27	4															
一次	酸素溶解循環ポンプ Aインバータ	H17	14	-	-	_	_															
	酸素溶解循環ポンプ Bインバータ	H17	14	-	-	_	_															
備	酸素溶解循環ポンプ Cインバータ	H17	14	-	-	_	-															
	酸素溶解循環ポンプ Dインバータ	H17	14	-	-	_	_															
	消泡剤注入ポンプA	H15	16	-	-	_	4															
	消泡剤注入ポンプB	H15	16	-	-	-	4															
	消泡剤注入ポンプS	H15	16	-	-	_	4															
	消泡剤貯槽	H16	15	-	-	-	4															
	メタノールサービスタンク	H16	15	-	-	-	4															
	メタノール注入ポンプA	H17	14	-	4年	-	4															
L	メタノール注入ポンプB	H17	14	-	4年		4															

(その3)

[3	第2処理棟】設備	設置	経過	更新	整備	前回	健			今 後	の整	備計	画	凡例	: 0:5	更新	□:整備	♦	总検	☆清掃		
	機器名称	年度	年数	間隔	間隔	整備	全度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	苛性ソーダ貯槽	H16	15	10年<	-	-	4									0						
	苛性ソーダ注入ポンプ (硝化用) A	H15	16	10年	10年	H26	4					0										0
	苛性ソーダ注入ポンプ (硝化用)B	H15	16	10年	10年	H26	4					0										0
	熱交換器	H17	14	-	7年	H28	4															
一次	冷却塔	H16	15	1	15年<	-	4			◎モ-タ 他												
処理	冷却水自動管理装置	H15	16	1	-	-	4						0									
設備	冷却水自動管理装置 注入ポンプA・B	H15	16	-	-	_	4						0									
	冷却水ポンプA	Н30	1	11年<	4年	Н30	4															
	冷却水ポンプB	H30	1	11年<	4年	H31	4															
	中継ポンプA	H17	14	_	3年	H32	4															
	中継ポンプB	H17	14	I	3年	Н33	4															
	生物膜分離装置A	H17	14	5年	1年	R元	4	\triangle	\triangleright	◎膜	Δ	Δ	Δ	Δ	◎膜	Δ	◎ ユニット	Δ	Δ	◎膜	Δ	Δ
	生物膜分離装置B	H17	14	5年	1年	R元	4	Δ	\triangleright	Δ	◎膜	Δ	Δ	Δ	Δ	◎膜	◎ ユニット	Δ	Δ	Δ	◎膜	Δ
	生物膜分離装置C	H17	14	5年	1年	H30	4	Δ	Δ	△	Δ	◎膜	Δ	Δ	Δ	Δ	◎膜+ ユニット	Δ	Δ	Δ	Δ	◎膜
	生物膜分離装置D	H17	14	5年	1年	R元	4	◎膜	Δ	Δ	Δ	Δ	◎膜	Δ	Δ	Δ	◎ ユニット	◎膜	Δ	Δ	Δ	Δ
	生物膜分離装置E	H17	14	5年	1年	R元	4	Δ	◎膜	Δ	Δ	Δ	Δ	◎膜	Δ	Δ	◎ ユニット	Δ	◎膜	Δ	Δ	Δ
	透過液吸引ポンプA	H15	16	-	3年	H28	4															
	透過液吸引ポンプB	H15	16	-	3年	H28	4															
	透過液吸引ポンプC	H15	16	-	3年	H28	4															
	透過液吸引ポンプD	H15	16	-	3年	H28	4															
	透過液吸引ポンプE	H15	16	_	3年	H28	4															
	透過液吸引ポンプ Aインバーター	H15	16	_	_	_	_															
生物膜	透過液吸引ポンプ Bインバーター	H15	16	-	-	-	_															
分離処一	透過液吸引ポンプ Cインバーター	H15	16	-	-	-	-															
理設備	透過液吸引ポンプ Dインバーター	H15	16	-	-	-	-															
	透過液吸引ポンプ Eインバーター	H15	16	-	-	-	_															
	膜分離槽撹拌プロワA	H17	14	-	3年	R元	4															
	膜分離槽撹拌ブロワB	H16	15	-	3年	R元	4															
	返送汚泥ポンプA	H17	14	-	3年	H27	4															
	返送汚泥ポンプB	H17	14	-	3年	H27	4															
	汚泥返送ポンプ Aインバータ	H17	14	ı	_	-	-															
	汚泥返送ポンプ Bインバータ	H17	14	ı	-	-	-															
	余剰汚泥引抜ポンプA	H17	14	ı	3年	H29	4															
	余剰汚泥引抜ポンプB	H17	14	J	3年	H29	4															
	余剰汚泥引抜ポンプ Aインバータ	H17	14	Ī	-	-	-															
	余剰汚泥引抜ポンプ Bインバータ	H17	14			-	-															

(その4)

[9	第2処理棟】設備	on All	経過	更新	整備	前回	健			今 後	が の 整	備計	画	凡例	: 0:5	更新	□ : 整備	♦	总検	☆清掃		
	機器名称	設置 年度	年数	門隔	間隔	整備	全度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	処理水移送ポンプA	H17	14	-	3年	H29	4							-						-		
	処理水移送ポンプB	H17	14	-	3年	H29	4															
	処理水移送ポンプ Aインバータ	H17	14	-	-	_	-															
生	処理水移送ポンプ Bインバータ	H17	14	_	_	_	-															
物膜分離	返送汚泥ビット散気装置	H17	14	-	-	_	-															
離処 理設	次亜塩素酸Na注入 ポンプ(膜洗浄用)A	H15	16	-	_	_	4															
備	次亜塩素酸Na注入 ポンプ(膜洗浄用)B	H15	16	_	-	_	4											0				
	次亜塩用薬洗タンク	H16	15	_	_	_																
	シュウ酸用薬洗タンク	H16	15	-	-	_	-															
	次亜塩素酸 ナトリウム貯槽	H23	8	10年	3年<	H23	4								0							
	汚泥貯留槽撹拌ブロワ	H17	14	-	2年	R元	4															
	分離液貯留槽 撹拌ブロワA	H17	14	-	2年	H30	4															
	分離液貯留槽 撹拌ブロワB	H17	14	-	2年	H30	4															
	汚泥貯留槽(2)散気装置	H17	14	-	-	_																
	汚泥供給ポンプA	H17	14	_	3年	R元	4															
	汚泥供給ポンプB	H17	14	-	3年	R元	4															
	汚泥供給ポンプC	H17	14	-	3年	R元	4															
	汚泥供給ポンプS	H17	14	-	3年	R元	4															
	汚泥供給ポンプ Aインバータ	H17	14	-	_	_																
	汚泥供給ポンプ Bインバータ	H17	14	-	-	_	-															
	汚泥供給ポンプ Cインバータ	H17	14	_	-	_	-															
	汚泥供給ポンプ Sインバータ	H17	14	-	-	_	-															
汚泥処	硫酸バンド貯槽	H16	15	10年<	-	_	4							0								
理設備	硫酸バンド注入ポンプA	H27	4	9年	_	H27	4					0									0	
	硫酸バンド注入ポンプB	H27	4	9年	-	H27	4					0									0	
	硫酸バンド注入ポンプC	H27	4	9年	-	H27	4					0									0	
	硫酸バンド注入ポンプS	H27	4	9年	-	H27	4					0									0	
	硫酸バンド注入ポンプ Aインバータ	H16	15	-	-	-	-															
	硫酸バンド注入ポンプ Bインバータ	H16	15	-	-	-	-															
	硫酸バンド注入ポンプ Cインバータ	H16	15	-	-	-	_															
	硫酸バンド注入ポンプ Sインバータ	H16	15	-	-	-	-															
	Ⅱ刹定量供給機	H15	16	-	3年	H28	4															
	Ⅱ刹溶解槽	H16	15	-	-	-	4															
	Ⅱ刹溶解槽撹拌機A	H15	16	15年<	7年	H26	4	0														0
	Ⅱ刹溶解槽撹拌機B	H16	15	15年<	7年	H26	4	0														0
	Ⅱ剤注入ポンプA	H17	14	-	3年	H27	4															

(その5)

			ı	ı	l	l																
[3	第2処理棟】設備	設置年度	経過年数	更新問隔	整備問隔	前回整備	健全度			今 後	の整	備計	画	凡例	: ◎:5	更新	□:整備	<i>◇k</i>	議検	☆清掃		
	機器名称	牛皮	十数	IFURN	IEUHM	近州	度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	Ⅱ剤注入ポンプB	H17	14		3年	H27	4															
	Ⅱ剤注入ポンプC	H17	14	-	3年	H27	4															
	Ⅱ剤注入ポンプS	H17	14	-	3年	H27	4															
	Ⅱ 剤注入ポンプ Aインバータ	H17	14	_	_	_	-															
	Ⅱ剤注入ポンプ Bインバータ	H17	14	_	_	_	_															
	Ⅱ 剤注入ポンプ Cインバータ	H17	14	_	_	_	-															
	Ⅱ剤注入ポンプ Sインバータ	H17	14	-	-	-	-															
	I 剤反応槽 A	H16	15	_	_	_	4															
	I 剤反応槽 B	H16	15	_	_	_	4															
	I 剤反応槽 C	H16	15	-	_	_	4															
	I 剤反応槽攪拌機 A	H15	16	11年<	10年	H26	4					0										
	I 剤反応槽攪拌機 B	H15	16	11年<	10年	H26	4					0										
	I 剤反応槽攪拌機 C	H15	16	11年<	10年	H26	4					0										
	II 剤反応槽 A	H16	15	_	_	_	4															
	II 剤反応槽 B	H16	15	_	_	_	4															
	Ⅱ剤反応槽C	H16	15	-	_	_	4															
	Ⅱ剤反応槽攪拌機A	H16	15	14年<	_	_	4		0													
処	Ⅱ剤反応槽攪拌機B	H16	15	14年<	_	_	4		0													
理設備	Ⅱ剤反応槽攪拌機C	H16	15	14年<	_	_	4		0													
	脱水機A	H16	15	-	3年	R元	3															
	脱水機B	H16	15	-	3年	H29	4															
	脱水機C	H16	15	_	3年	H26	3															
	油圧ユニットA	H17	14	-	3年	R元	4															
	油圧ユニットB	H17	14	-	3年	H29	4															
	油圧ユニットC	H17	14	-	3年	H30	4															
	オイルタンクA	H17	14	-	_	_	-															
	オイルタンクB	H17	14	-	_	_	-															
	オイルタンクC	H17	14	-	_	_	-															
	脱水汚泥移送装置(1)	H16	15		5年	H24	4															
	脱水汚泥移送装置(2)	H16	15	21年<	5年	H24	4															
	脱水汚泥移送装置(3)	H16	15	-	5年	H24	4															
	オートストレーナA	H17	14	-	12年	R元	4															
	オートストレーナB	H17	14	-	-	-	4															
	オートストレーナC	H17	14	-	-	-	4															
	ろ液槽散気装置	H17	14	-	-	-	-															
	ろ布洗浄水ポンプ A	H17	14	15年<	4年	H27	4	0														

(その6)

[3	第2処理棟】設備	数署	設置 経過	経過	更新	整備			今後の整備計画 凡例: ◎:更新 □:整備 ◇点検 ☆清掃													
	機器名称	年度	年数	間隔	間隔	整備	全度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	ろ布洗浄水ポンプB	H17	14	15年<	4年	H27	4	0														
	ろ布洗浄水ポンプC	H17	14	15年<	4年	H27	4	0								-						
	ろ布洗浄水ポンプS	H17	14	15年<	4年	H27	4	0														
	洗浄水槽散気装置	H17	14	_	_	_	_															
汚泥処	ろ液移送ポンプA	H17	14	_	4年	H27	4															
理設備	ろ液移送ポンプB	H17	14	_	4年	H27	4															
	分離液貯留槽散気装置	H17	14	_	_	_	-															
	分離液移送ポンプ(1) A	H17	14	_	3年	H29	4															
	分離液移送ポンプ(1) S	H17	14	_	3年	H29	4															
	分離液移送ポンプ(2)	H17	14	_	3年	H29	4															
	高濃度臭気ファン	H17	14	-	4年	H27	4															
	生物脱臭塔 シールポット	H16	15	-	-	_	4															
	生物脱臭塔	H16	15	_	_	_	4															
	生物脱臭塔充填材	H16	15	9年	_	H28	_							0								
	硫酸貯槽	H16	15	10年<	5年	_	4						0									
	硫酸注入ポンプ (脱臭用) A	H15	16	_	_	_	4													0		
	硫酸注入ポンプ (脱臭用) B	H15	16	_	_	_	4													0		
	酸洗浄塔	H15	15	-	-	_	4															
	酸洗浄塔充填材	H15	15	-	_	_	_								0							
	アルカリ洗浄塔	H15	15	-	_	_	4															
	アルカリ洗浄塔充填材	H15	15	-	-	_	_							0								
	次亜塩素酸Na注入 ポンプ(脱臭用) A	H27	4	6年	-	H27	4		0						0						0	
脱臭	次亜塩素酸Na注入 ポンプ(脱臭用) B	H27	4	6年	-	H27	4		0						0						0	
設備	アルカリ次亜塩 循環ポンプA	R元	0	-	3年	R元	4															
	アルカリ次亜塩循 環ポンプB	R元	0	-	3年	R元	4															
	苛性ソーダ注入 ポンプ(脱臭用) A	H15	16	8年	-	H26	4			0								0				
	苛性ソーダ注入ポンプ (脱臭用) B	H15	16	8年	-	H26	4			0								0				
	酸循環ポンプA	R元	0	-	3年	R元	4															
	酸循環ポンプB	R元	0	-	3年	R元	4															
	ミストセパレーター	H15	16	-	-	_	4															
	ミストセパレーター充填材	H15	16	-	-	-	_															
	中濃度臭気活性炭脱臭塔	H16	15	-	-	-	4															
	中濃度臭気ファン	H17	14	-	4年	H27	4															
	中濃度臭気活性炭脱臭塔活性炭	H16	15	-	-	-	_	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替
	低濃度臭気ファン	H17	14	-	4年	H27	4															
	低濃度臭気活性炭 脱臭塔 A	H16	15	-	-	-	4															

(その7)

				ı	ı	ı																
[3	第2処理棟】設備	設置	経過	更新	整備	前回	健全度			今 後	の整	備計	画	凡例	: ◎:⅓	更新	□:整備	♦	検	☆清掃		
	機器名称	年度	年数	問隔	問隔	整備	度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	低濃度臭気活性炭 脱臭塔 B	H16	15	_	_	_	4															
	低濃度臭気活性炭 脱臭塔 A 活性炭	H16	15	_	_	_	-	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替
	低濃度臭気活性炭 脱臭塔 B 活性炭	H16	15	-	_	_	ı	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替	入替
脱臭設	バキューム車排臭 捕集装置A	H16	15	7年	_	H27	4			⊚ ホースノス°ル							⊚ ホースノス°ル					
設備	バキューム車排臭 捕集装置B	H16	15	7年	_	H27	4			⊚ ホースノス゛ル							⊚ ホースノス°ル					
	バキューム車排臭 捕集装置C	H16	15	7年	_	H27	4			⊚ ホースノス゛ル							⊚ ホースノス°ル					
	バキューム車排臭 捕集装置D	H16	15	7年	-	H27	4			©\$-3/3° №							◎ホースノズル					
	臭突	H17	14	-	-	-	-															
	プロセス用水ポンプA	H30	1	-	2年	H30	4						◎ 給水ユ ニット									
	プロセス用水ポンプB	H30	1	_	2年	H30	4						◎給水ユニット									
	計装コンプレッサーA	H28	3	10年	10年	H28	-					0										0
	計装コンプレッサーB	H16	15	-	_	_	-										0					
	エアドライヤー	H28	3	8年	_	H28	-					0								0		
取	床排水ポンプD	H16	15	10年<	_	_	-															
排水	床排水ポンプE	H30	1	8年	-	H30	-						0									0
	床排水ポンプF	H27	4	8年	-	H27	-						0									
	床排水ポンプG	H16	15	7年<	_	_	-											0				
	床排水ポンプH	H16	15	6年<	_	_	-											0				
	床排水ポンプ I (受入室入口)	H16	15	5年<	_	_	-															
	床排水ポンプ J (受入室出口)	H30	1	11年	-	H30	-						0									
	し渣ホッパ	H15	16	-	7年	H28	4															
	し渣ホッパインバータ	H15	16	-	_	_	_															
	汚泥ホッパ	H15	16	_	7年	H27	4															
	汚泥ホッパインバータ	H15	16	-	-	-	-															
	予備処理タンク	H15	16	-	4年	H26	3	☆□	☆	☆	☆	☆□	☆	☆	☆	☆□	☆	☆	☆	☆□	☆	☆
	予備処理タンク撹拌機	H15	16	-	_	_	-															
	集水ピットA	H17	14	-	_	_	-															
資源化	集水ピットB	H17	14	-	_	_	-															
化設備	集水ピットC	H17	14	_	_	_	-															
	消泡剤受けホッパ	H15	16	_	_	_	_															
	薬注タンク	H15	16	-	-	-	_															
	ベントコンデンサ	H15	16	-	-	-	-															
	反応釜(クッカー)	H15	16	-	1年	R元	3												0			
	ミストキャッチャー	H15	16	-	1年	R元	4															
	反応釜油圧ユニット	H15	16	-	-	-	4															
	原料投入配管(予備 処理タンク~反応釜)	H30	1	7年<	_	H30	_				_											_

(その8)

【 角	52処理棟】設備	設置	経過		整備 削凹	健全																
	機器名称	年度	年数	門隔	間隔	整備	全度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	反応釜真空調節弁	Н30	1	7年<	-	Н30	_									0						
	反応釜蒸気流量弁c	H16	15	-	-	-	-	♦	♦	\langle	♦	\langle	\langle	\langle	\langle	\langle	\langle	\$	\langle	♦	\langle	♦
	反応釜蒸気流量弁d	H16	15	1	-	-	-	♦	\langle	\langle	<	\langle	♦	\langle	♦	\langle	\langle	♦	♦	♦	♦	♦
	粗油分離装置 (移送+破砕)	H15	16	ı	5年	H30	4															
	粗油分離装置 aインバータ	H15	16	-	-	-	-															
	油切下タンク	H15	16	15年<	1年	R元	3	☆⊚	☆□	☆□	☆□	☆□	☆□	☆□	☆□	☆□	☆□	☆□	☆□	☆□	☆□	☆□
	油切下タンク撹拌機	H15	16	15年<	12年	H25	4	0														
	油分離汚泥移送 装置-1	H30	1	11年<	1年	H30	3															
	脱油プレス	H16	15	I	2年	R元	4															
	ケトル	H15	16	1	5年	R元	4															
	フィーダー	H15	16	ı	5年	R元	-															
	フィーダーインバータ	H15	16	ı	-	-	_															
	脱油プレス 油圧ユニット	H15	16	1	_	-	3															
	脱油プレス圧力	H16	15	-	_	-	_	\Diamond	♦	♦	♦	♦	\Diamond	♦	♦	♦	♦	♦	♦	\Diamond	♦	\Diamond
	プレス下タンク	H15	16	14年	-	_	_	☆	☆⊚	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	章	☆	垃	☆	☆	☆
	プレス下タンク撹拌機	H15	16	14年	_	-	_		0													
	油戻しポンプA	H17	14	_	2年	R元	4							H15								
資源化	油戻しポンプB	H17	14	-	2年	R元	3															
設備	油戻しポンプA インバータ	H15	16	_	-	_	-															
	油戻しポンプBインバータ	H15	16	-	-	-	_															
	油分離汚泥 移送装置-2	H15	16	13年<	1年	R元	3			0												
	冷却機(ミールクーラー)	H15	16	_	6年	Н30	4															
	冷却機(ミールクー ラー) インバータ	H15	16	-	-	-	_															
	製品振分コンベヤ	H15	16	-	7年	R元	4															
	し渣用製品ホッパ	H15	16	-	5年	H25	4															
	し渣用製品ホッパ インバータ	H15	16	-	-	-	_															
	汚泥用製品ホッパ	H15	16	-	_	_	4															
	汚泥用製品ホッパ インバータ	H15	16	ı	_	_	-															
	計量器	H15	16	-	5年	H26	4															
	製品コンベヤ	H15	16	12年<	5年	H24	4				0											
	製品コンベヤインバータ	H15	16	-	-	-	_															
	計装用コンプレッサ	H17	14	-	-	-	-															
	油分離液移送ポンプA	H17	14	-	2年	R元	4															
	油分離液移送ポンプB	H17	14	-	2年	R元	4															
	油分離液移送ポンプ Aインバータ	H15	16	-	-	-	-															
	油分離液移送ポンプB インバータ	H15	16	-	-	-	-															

(その9)

[9	第2処理棟】設備	設置	経過	更新	整備	前旧	前回全	今後の整備計画 凡例: ◎:更新 □:整備 ◇点検 ☆清掃														
	機器名称	年度	年数	間隔	間隔	整備	全度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	油分離液タンク	H15	16	-	5年	H30	4	☆□	☆	☆	☆	☆	☆□	☆	☆	☆	☆□	☆	☆	☆	☆□	☆
	油分離液タンク撹拌機	H15	16	15年<	-	-	4	0													0	
	油分離液供給ポンプA	H17	14	-	3年	Н30	4															
	油分離液供給ポンプB	H17	14	-	3年	H30	4															
	油分離液供給ポンプ Aインバータ	H15	16	-	-	-	-															
	油分離液供給ポンプ Bインバータ	H15	16	-	_	-	_															
	ドレン回収装置	H15	14	-		-	2	◇法定	◇法定	◇法定	◇ 法定	◇ 法定	☆法定	◇ 法定	⇒法定	◇ 法定	⇒法定	☆法定	◇ 法定	◇法定	法定	☆法定
	ドレンポット	H16	15	-	-	-	-															
	ドレンポンプ 1	H15	16	15年<	-	-	-	0														
	ドレンポンプ 2	H15	16	15年<	-	-	-	0														
	遠心分離機	H17	14	-	2年	R元	4		□減速 電動機		スクリュー											
	サンプリング	H17	14	-	-	-	-															
	油受タンク	H15	16	-	-	-	4	☆	☆	☆	☆	☆	☆	‡	☆	☆	☆	☆	ដ	☆	☆	☆
	分離油移送ポンプA	H17	14	-	3年	Н30	4															
	分離油移送ポンプB	H17	14	_	3年	H30	4															
	分離油移送ポンプAインバータ	H15	16	-	_	-	-															
	分離油移送ポンプ Bインバータ	H15	16	-	-	-	-															
資源化	油計量タンクA	H15	16	_	5年	H30	2															
設備	油計量タンクB	H15	16	-	5年	H30	4															
	油計量タンクA撹拌機	H15	16	13年	-	-	4		0													0
	油計量タンクB撹拌機	H15	16	13年	_	-	4		0													0
	加油ポンプA	H17	14	_	3年	H29	4															
	加油ポンプB	H17	14	_	3年	H29	4															
	加油ポンプ Aインバータ	H15	16	-	_	-	-															
	加油ポンプ Bインバータ	H15	16	-	-	-	-															
	油分離残渣移送装置	H15	16	-	5年	H30	3															
	凝縮器 (コンデンサー)	H16	15	_	2年	H30	4															
	熱交換機A	H17	14	-	-	-	4															
	熱交換機B	H17	14	_	_		4															
	ラインポンプ	H17	14	-	-	-	4															
	ラインポンプ	H15	16	-	_	_	4															
	凝縮水ポンプA	H17	14	10年<	4年	H29	4															
	凝縮水ポンプB	H17	14	10年<	4年		4															
	凝縮水タンク	H16	15	-	ı	-	4															
	凝縮水移送ポンプA	H17	14	10年<	4年	H29	4															
L	凝縮水移送ポンプB	H17	14	10年<	4年	H29	2															

表3.6.1(2) 主要設備・機器の劣化状況及び今後の整備計画(第2処理棟:機械設備)

(その10)

第2処理棟】設備	設置	経過	更新	整備	前回	健全			今 後	ぎの 整	備計	画	凡例	: 0:3	更新	□:整備	<> ⊀	点検	☆清掃		
機器名称	年度	年数	問隔	間隔	整備	度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
真空ポンプA	H17	14	-	2年	H30	4															
真空ポンプB	H17	14	-	2年	Н30	4															
水槽	H17	14	_	_	_	_															
冷却水循環ポンプA	H17	14	_	3年	Н30	3															
冷却水循環ポンプB	H17	14	_	3年	Н30	3															
冷却装置A	H17	14	_	_	_	4		◎t 9他													
冷却装置B	H17	14	-	-	-	4		◎t 9他													
冷却装置C	H17	14	_	-	-	4		◎t 9他													
冷却装置D	H17	14	-	-	-	4		◎モー タ他													
補給水ポンプ	H15	16	-	-	-	_															
燃焼脱臭装置	H16	15	-	-	R元	3	\qquad	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦		♦	♦	♦
燃焼脱臭排気ファン	H17	14	-	-	-	3															
燃焼脱臭設備ブロワ	H16	15	-	5年	H27	2															
燃焼バーナー	H16	15	-	14年<	-	4	\langle		\$	♦	♦	\$	\$	\$	\$	♦	\$	♦	♦	♦	♦
燃焼脱臭装置重油 サービスタンク	H16	15	_	_	_	4															
煙突	H16	15	_	_	_	4															
ボイラー設備	H17	14	-	11年<	R元	4	♦□	♦□	♦□	♦□	♦□	\$	\$	\$	\$	♦	\$	♦	♦	♦	\$
ボイラー設備 重油ポンプ	H17	14	_	_	_	_															
メタンガス監視装置	H23	8	-	-	-	_	\qquad	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦		♦	♦	♦
ホットウェルタンク	H15	16	_	-	-	4															
軟水器	H15	16	-	-	-	4															
受水槽	H15	16	-	-	-	4															
送水ポンプA	H16	15	12年<	4年	R元	4				0											
送水ポンプB	H16	15	12年<	4年	R元	4				0											
燃焼脱臭装置 重油ポンプ A	H17	14	-	-	_	4															
燃焼脱臭装置 重油ポンプB	H17	14	-	-	-	4															
重油タンク	H16	15	-	-	-	4	◇法定	☆法定	◇法定	◇法定	◇法定	◇法定	◇法定	◇法定	☆法定	☆法定	☆法定	◇法定	◇法定	◇法定	⇒法定
重油サービスタンク	H16	15	-	-	-	4															
重油ポンプA	H17	14	-	-	-	4															
重油ポンプB	H17	14	-	-	-	4															
空気槽	H16	15	_	-	-	_															
受入室前入口舗装	-	-	-	-	H24	_															
前処理機側溝 グレーチング蓋設置	H29	2	-	-	H29	_															
クリタックシステム	H29	2	_	_	-	-								0							
電気設備	-	-	11年<	-	-	_	\qquad	♦	♦	♦	0	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦	♦

健全度:1 劣化進み、機能回復困難。2 劣化が進むも、機能回復可能。3 軽微な劣化あるも機能に支障なし。4 支障なし

第7節 施設の継続稼働

1 継続稼働のための検討課題、性能水準について

目標年度まで施設稼動させるため、課題等を整理し、目標とする性能水準を設定する。 継続稼働に向けた課題および目標とする性能水準は次のとおりである。

(1)課題:設備・機器の老朽化等

目標とする性能水準:信頼性の向上

当初施設は稼動開始後35年経過し、当初から継続稼働している設備は耐用年数を 超過している。土木建築設備についても、経年的劣化が進行している。目標年度ま での継続稼働を考慮すると補修の頻度が多く更新を前提とした整備が必要となるこ とが見込まれる。土木建築設備である水槽については槽内の劣化状況に応じて防食 補修などの整備も検討する必要がある。

(2)課題:搬入量、搬入物性状変化

目標とする性能水準:安定性の向上

施設への搬入量は施設計画処理能力以内となっており、負荷に応じた運転により 継続的に安定した処理機能が確保されているが、将来予測結果によると搬入量は減 少傾向となっている。

機器整備の際には効率も考慮し搬入量に応じた能力への選定も検討することが必要となる。

(3) 課題:二酸化炭素排出量の削減

目標とする性能水準:省エネルギー、効率化

地球温暖化対策の推進に関する法律により、大気中の温室効果ガスの濃度を安定 化させ地球温暖化を防止するという課題に対し、事業者に対しても積極的に温室効 果ガスの排出の抑制に取り組むことが求められている。

施設における主なC02の発生要因は、①施設の稼動に必要な電力消費によるもの ②資源化設備運転に伴う化石燃料の使用によるもの、③施設運転に伴う薬品使用に よるもの等がある。

当施設の主な設備は、インバータ制御またはタイマ制御により、処理量、負荷量の変動に対応可能な機器が設置されており効率を考慮した運転が可能な設備となっている。修繕、更新等の施設整備の際は、適正能力、高効率機器等の選定が求められる。

2 性能水準への対応と関連設備

設定した性能水準に応じて整備の際に必要となる対応および関連設備は、表3.7.1に

示すとおりである。

第6節 整備スケジュール に示す今後の整備計画の実施にあたり以上の対応を考慮して計画することが適当である。

表3.7.1 性能水準への対応

目標とする性能	項目	課題	対応	関連設備
水準				
省エネルギー	電力削減	・C02排出量の	・インバータ制	受入貯留
		削減	御	主処理
		・効率の向上	・高効率モータ	高度処理
			の採用	汚泥処理
			・高効率設備の	脱臭
			導入	電気計装
			• 週休運転	
	燃料削減	・C02排出量の	• 化石燃料使用	資源化設備
		削減	設備の将来的な	
			更新の機会に検	
			討	
信頼性の向上	設備機能回復	・設備装置の経	・定期的な整備	受入貯留
		年的劣化、性能	•機器更新	主処理
		低下	• 水槽防食補修	高度処理
		• 水槽防食劣化	・更新時に適正	汚泥処理
		・搬入性状への	能力設備を選択	脱臭
		対応		電気計装
安定性の向上	安定運転	・搬入量および	更新時に適正	受入貯留
		搬入性状の変化	能力設備を選択	主処理
				高度処理
				汚泥処理